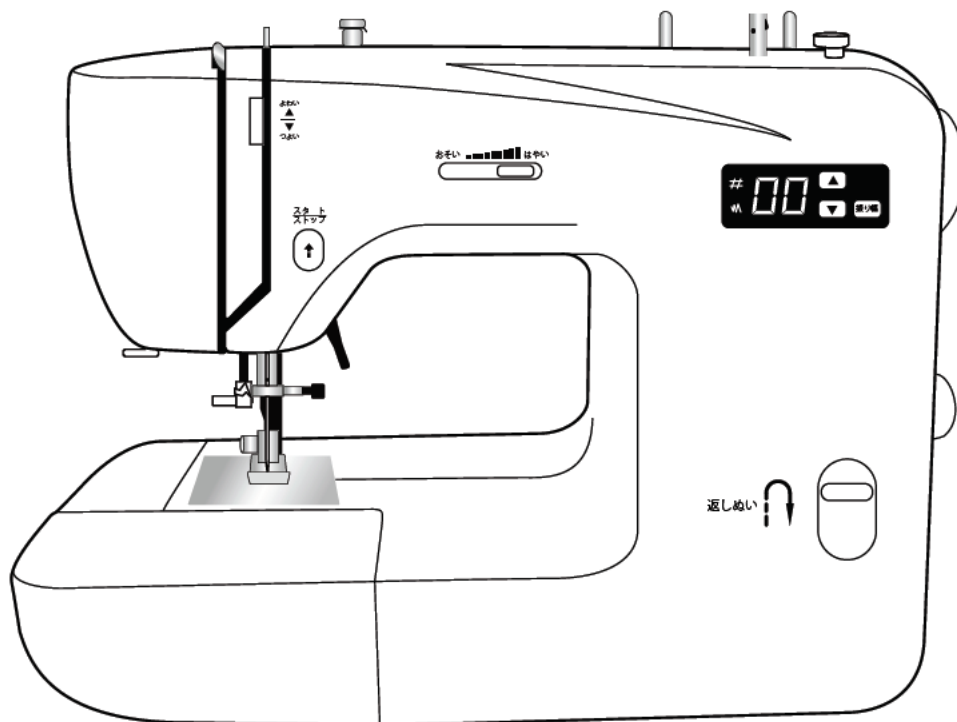


取扱説明書

モデル：HH-2250

Sewing Machine



お買い上げいただきありがとうございます。



株式会社 アックス アマザキ



電気製品は安全のための注意事項を守らなければ、火災や人身事故になる場合がございます。
この「取扱説明書」には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いを示しています。
この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、この製品を安全にご使用ください。

また、お読みになった後はいつでも見るように、必ず保管してください。

お使いになる前にお読みください

安全にご使用いただくために	-----	2 ～ 3
取り扱いのお願い	-----	3
補助テーブル	-----	4
付属品	-----	4
各部の名まえ	-----	5

操作の仕かた

ドロップフィード	-----	6
操作パネル	-----	7
手持ちハンドル	-----	7
押え上げレバー	-----	8
押えの取り外しかた・取り付けかた	-----	8
押えホルダーの取り外しかた・取り付けかた	-----	9
スピード調節ツマミ	-----	9
電源を入れる前に	-----	10
電源を入れる	-----	10

縫う前の準備

ボビンの取り出しかた	-----	11
下糸の巻きかた	-----	12 ～ 13
下糸のセット	-----	14
上糸のかけかた	-----	15 ～ 16
針穴糸通し器	-----	17 ～ 18
下糸の引き上げかた	-----	18
縫い目の長さを変える	-----	19
針の位置を変える	-----	19

縫ってみる <基本編>

直線縫い	-----	20
返し縫い	-----	21
縫い方向を変える	-----	21
厚地や段差を縫う	-----	21
糸調子の合わせかた	-----	22
針、糸、生地の関係	-----	23

縫ってみる <応用編>

ジグザグ縫い／縁かがり縫い	-----	24
アップリケ	-----	25
パッチワーク（つき合わせ）	-----	25
ゴムテープ付け	-----	26
スカラップ	-----	26
ピンタック	-----	27
上送り押え	-----	27
まつり縫い（ブラインドステッチ）	-----	28
ロックカッター	-----	29 ～ 30
ファスナー付け（突き合わせ）	-----	31
ファスナー付け（脇あき）	-----	32 ～ 33
ボタンホール縫い	-----	33 ～ 34
操作パネルのメッセージ	-----	35

お手入れ

針の取り替えかた	-----	36
正しい針の選びかた	-----	36
かまの掃除	-----	37 ～ 38
送り歯の掃除	-----	39

その他

フットコントローラー（別売品）	-----	40
ワイドテーブル（別売品）	-----	41
困ったときは	-----	42 ～ 43
仕様	-----	43
修理サービス要領	-----	44
お問い合わせまたはご相談先	-----	44
サービス工場のご案内	-----	44
MEMO	-----	45 ～ 46
保証書	-----	終

安全にご使用いただくために

ご使用の前に「取扱説明書」を必ず読み、正しく安全にご使用ください。

この取扱説明書および商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。以下の表示を無視して誤った取り扱いをすることにより生じる内容を、次のように区分しています。

以下の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

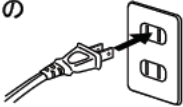
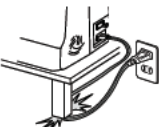
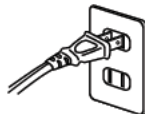
- このミシンは日本国内向け家庭用です。For use in JAPAN only. 国外での使用および職業用としてご使用になった場合の保証はできません。
- 仕様および外観は品質改善のため、予告なく変更することがあることをご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますのでご了承ください。

 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う恐れがある内容を示しています。	 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人がケガをしたり財産に損害が生じる恐れがある内容を示しています。
---	---	---	--

この説明書で使用している絵文字の意味は次の通りです。

危険性を促す記号	行為を「禁止」する記号	行為を「指示」する記号
 火災の原因になります  感電の危険性があります  ケガの危険性があります	 禁止  分解禁止	 必ずすること  電源プラグを抜く

 注意	   ケガや財産に損害が生じる恐れがあります。	
 	・ミシンを不安定な場所に置かないでください。 ・動作中に、はずみ車・針・天びんに手を触れないでください。 手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。 ・曲がった針は使わないでください。 針が折れ、ケガの原因になります。 ・かまカバーを開けたままミシンを操作しないでください。 ・縫製中、生地を無理に引っばったり、押ししたりしないでください。 手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。	 ・電源コードはミシン本体やフットコントローラーに巻き付けしないでください。 コードの断線や接触不良による感電の原因になります。 ・濡れた手で電源コードプラグを抜き差ししないでください。 感電の原因になります。
 	・火の気のあるもののそばでは使用しないでください。 (火の消えていないタバコ、ロウソクなど) 火災の原因になります。 ・ミシン本体の換気口をふさがないでください。 ・換気口は、必ず壁から 30cm 以上離してご使用ください。 また、換気口に糸くずやホコリが溜まらないようにしてください。 火災の原因になります。 ・スプレー製品などをご使用の部屋では、使用しないでください。 スプレーへの引火によるヤケド・火災の原因になります。	  ・幼児の手が届かない場所に保管してください。 針や押えなどの突起でケガの原因になります。 ・糸をセットするときやミシンの手入れを行うときは電源スイッチを『OFF』にしてください。 作業途中にミシンが動く恐れがありケガの原因になります。
 	・ミシンを使用しないときやミシンから離れたり、使用を中断するときはコンセントから電源コードプラグを抜いてください。 絶縁劣化、漏電などによる火災の原因になります。	 ・ミシンの操作中はミシンから目を離さないでください。 ・交換した針を放置しないでください。 ・お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは特に安全に注意し、お子様から目を離さないでください。 ・針、押え、アタッチメントを交換するときは、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。 作業途中にミシンが動く恐れがありケガの原因になります。 ・屋外や直射日光のあたる場所、高温多湿な環境、寒い場所での使用は避けてください。 部品の劣化や変形、正常に作動しないことがあります。 ・ミシン本体は必ず手持ちハンドルを持って、持ち運びをしてください。 手持ちハンドル以外の部分を持つと破損したり、滑って落とし、ケガの原因になります。 ・ミシン本体を持ち運びするときは、急激・不用意な動作をしないでください。 ケガの原因になります。 ・電源コードを引き抜くときは電源コードプラグを持って抜き差ししてください。 コードの断線や接触不良による感電の原因になります。

 警告		  死亡、火災、感電の恐れがあります。	
   火災・感電の原因になります。	一般家庭用電源 AC100V の電源以外では絶対に使用しないでください。 AC100V 50/60Hz 		ミシンの中に水や異物が入ったときは、電源スイッチを『OFF』にし、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。 
	電源コードを傷つけたり、折り曲げ、結び、ねじれ、加工はしないでください。 		発煙や異臭、異音などの異常が発生したら電源スイッチを『OFF』にし、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。 
	傷付いたり、溶けて線がむき出しになったコードを使わないでください。 *コードが傷付いた場合は販売店・サービスセンターにて純正部品をお買い求めください。 		落としたり正常に作動しないときは電源コードプラグをコンセントから抜いてください。 
	電源コードに机や椅子の脚など、重いものを載せないでください。 	ご販売店・サービスセンターに 火災・感電の原因になります。	電源コードプラグをコンセントにしっかり差し込んでください。 
	延長コードや分岐コンセントを使用したタコ足配線はしないでください。 		ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。

取り扱いのお願い

本製品を永くご使用いただくため、次のことを守ってください。

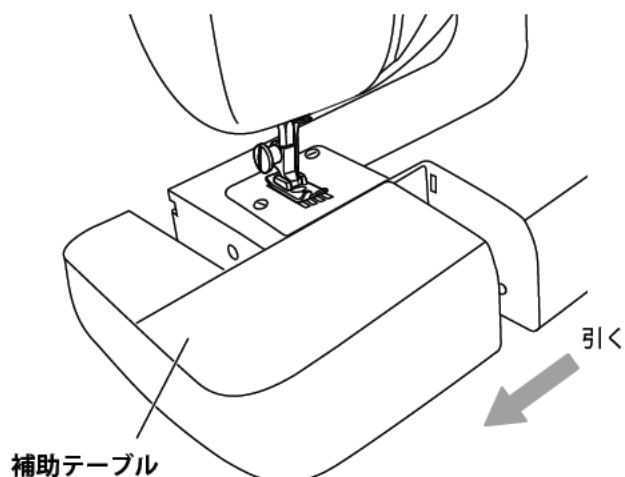
縫製以外や業務用、職業用の目的には、ご使用にならないでください。極度の部品摩耗や破損につながります。

 注意		  ケガやミシンの故障が発生する恐れがあります。	
--	--	--	--

- 曲がった針を使わない
 曲がった針を使うと、次のようなケガや部品の損傷につながります。
 ・針穴に刺さらず、折れた針が飛び、ケガの原因となります。 ・押えや針板、ポビンケースに傷を付け、糸調子が合わなくなります。
- このミシンで縫えないもの
 次のものはこのミシンでは縫えません。針やモーターなどに過度の負担をかけ、故障の原因になるだけでなく、針折れなどの原因にもなります。
 ・木、プラスチック、金属などの板・ぬれた生地、粗い網（漁網など） ・はずみ車を手で回しても針が刺さりにくい生地、厚過ぎる生地
- 保管時の結露（つゆつき）について
 寒いところから、暖かい室内に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋では、本体の表面や内部に結露（つゆつき）が起ることがあります。結露がなくなるまで、電源コードプラグをコンセント（家庭用電源）に接続しないでください。そのままお使いになると感電や誤動作・故障の原因になります。
- 直射日光・熱気をさける
 直射日光が当たる場所や熱器具の近くには置かないでください。プラスチックのカバー部分や内部部品に変色・変形や部品劣化などの悪い影響を与えますのでご注意ください。
- 糸絡みのとき、糸・生地を引っばらない
 針や部品が破損します。
- ミシン表面のお手入れ
 プラスチック部分の汚れがひどいときは、中性洗剤をぬるま湯に薄め、布に浸してかたく絞り、乾いた布で仕上げてください。
 ・ベンジン・シンナー・ワックスなどで拭かないでください。
- 説明書で指定された以外の分解・改造はしない
 ネジ類の締め忘れやゆるみにより、針折れや部品の破損の原因となります。
- 長期間ご使用にならないとき
 長期間ご使用にならないと、油の乾燥・固着などで機能に支障をきたす場合があります。時々、ミシンを動かしてください。油の固着を防ぐことができます。
- ミシンの上に物を載せない / ミシンの上に乗らない
 ミシンに負担がかかり故障の原因になるだけでなく、ミシンが倒れたりしてケガの原因にもつながります。

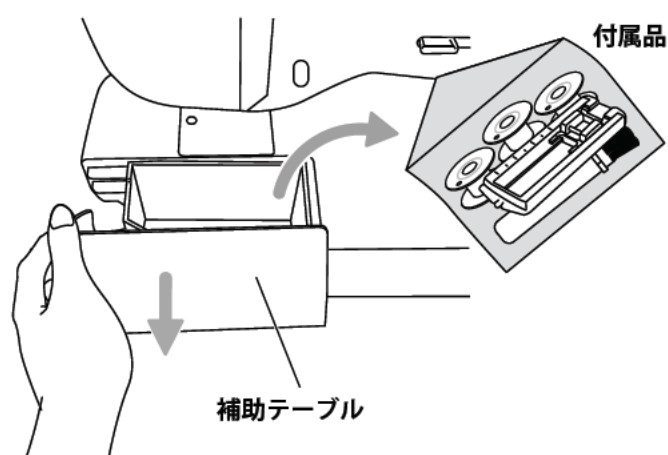
補助テーブル

●補助テーブルの外しかた



『補助テーブル』を持って左に引き抜きます。

●付属品の出し入れ



『補助テーブル』を手前に開くと『付属品』の出し入れができます。

付属品

*必ず専用の付属品をご使用ください。

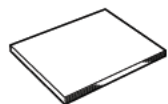


注意



付属品でお子様がケガをする恐れがあります。
保管には充分ご注意ください。

●ミシンと同梱されている付属品



取扱説明書（本書）



ミシンカバー



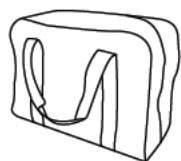
電源コード



ワイドテーブル



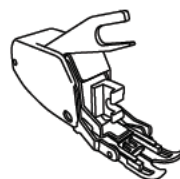
DVD



キャリングバッグ



フットコントローラー



上送り押え



ロックカッター

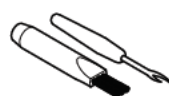
●補助テーブル内の付属品



フェルト



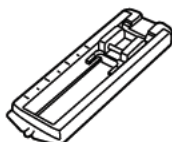
家庭用ミシン針
9番：1本
11番：1本
14番：1本



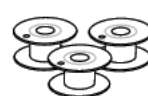
リッパー
(ブラシキャップ付)



針板ドライバー



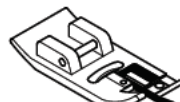
ボタンホール押え



家庭用プラスチックボビン
(高さ 11.5mm × 直径 20.5mm)
ボビン 3個



ファスナー付け押え



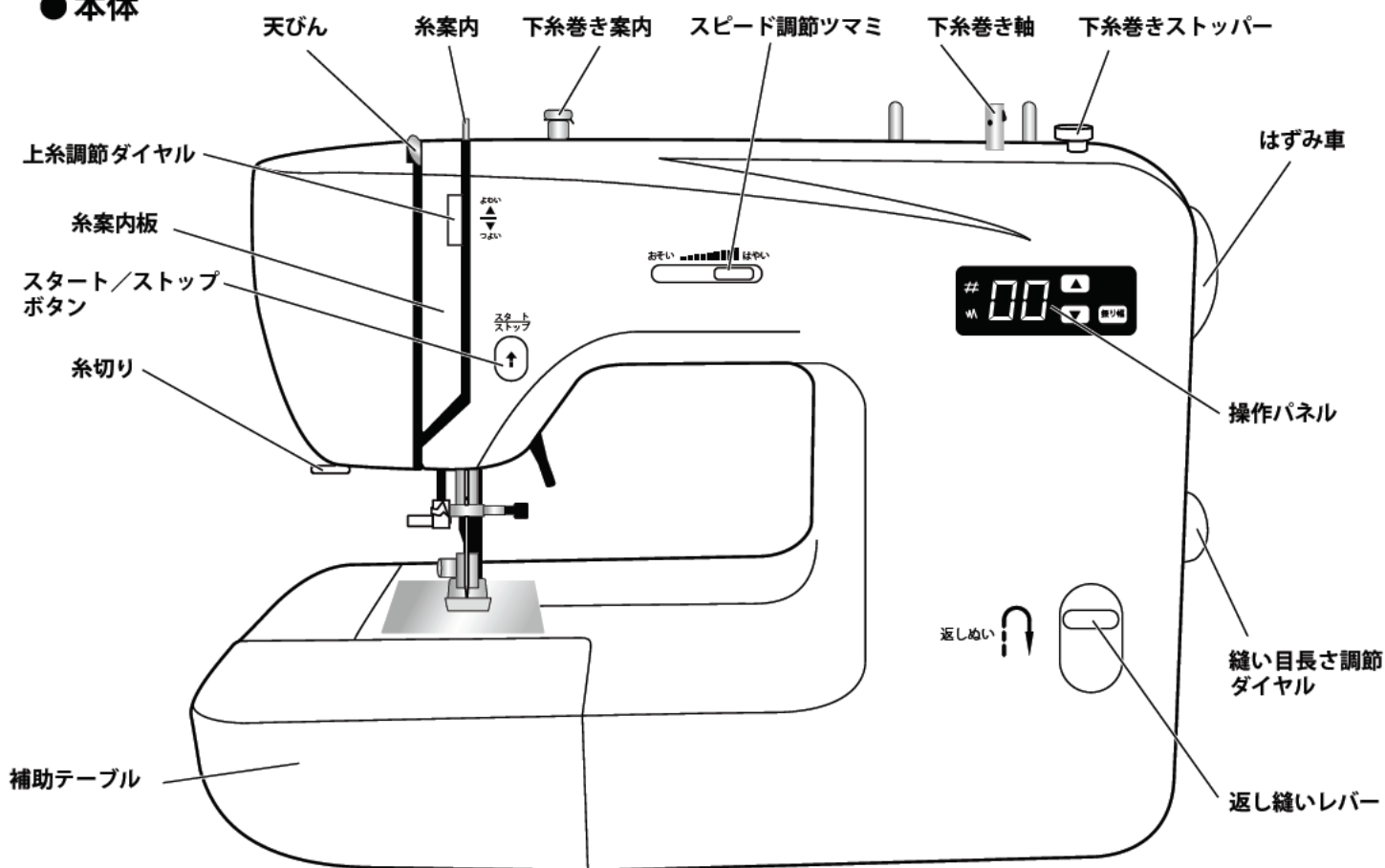
縁かがり押え



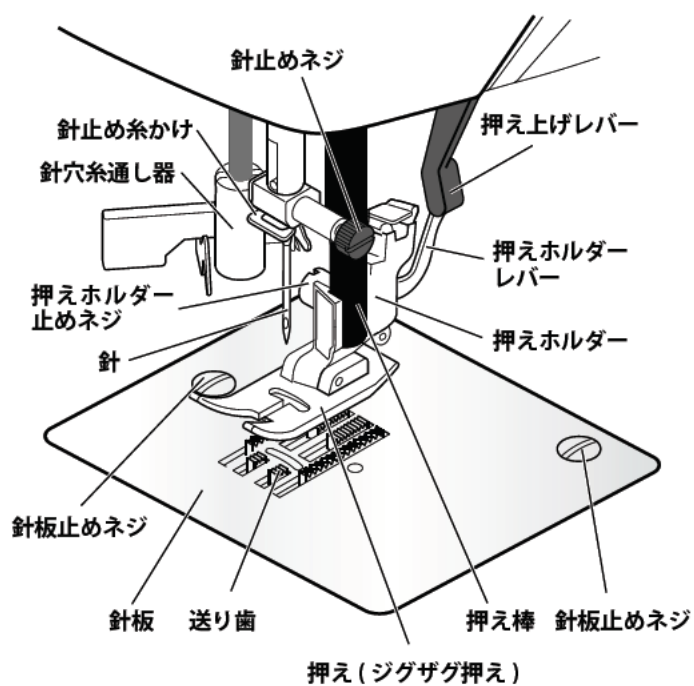
直線押え

各部の名まえ

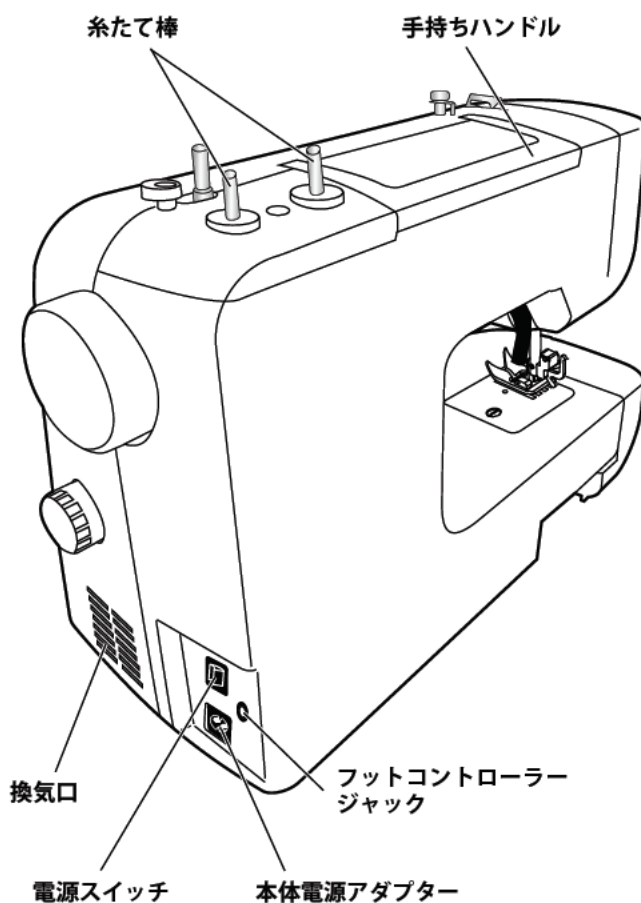
● 本体



● 針周辺

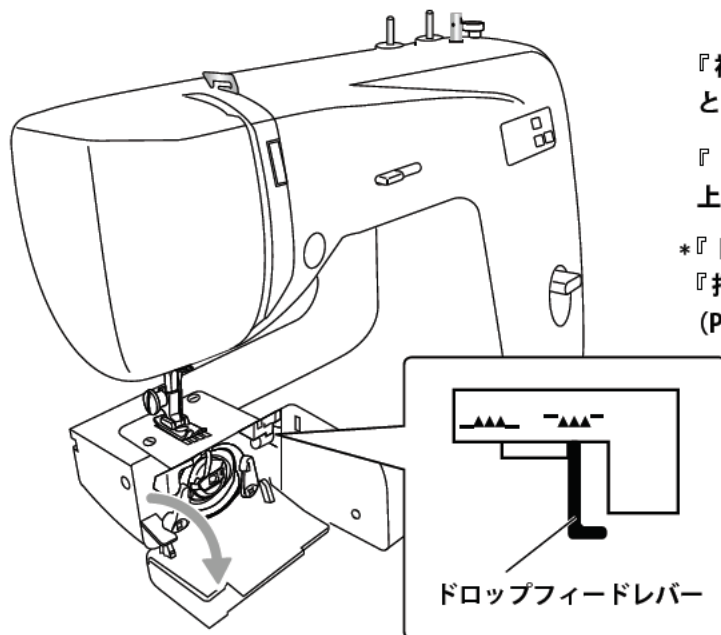


● 右側背面



ドロップフィード（送り歯高さ切り替え）

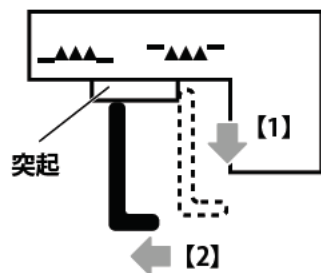
刺しゅうやキルトなど生地を手で動かして縫うときに、送り歯を下げるができます。



『補助テーブル』を外して『かまカバー』を開くと『ドロップフィードレバー』が確認できます。

『ドロップフィードレバー』を操作することで、送り歯を上下させることが可能になります。

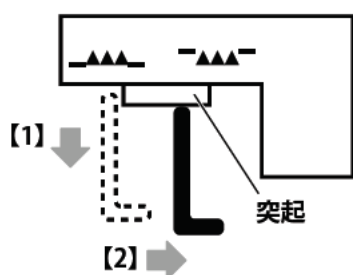
*『ドロップフィードレバー』を操作するときは、
『押え上げレバー』を上げてください。
(P8 の押え上げレバーを参照してください)



●送り歯を上げる場合（通常縫い）

『ドロップフィードレバー』を下げたまま
左にスライドさせて、突起に引っかけます。

*『送り歯』が上がってこないときは、『はずみ車』を
手前に1回転すると『送り歯』が上がります。



●送り歯を下げる場合

『ドロップフィードレバー』を下げたまま
右にスライドさせて、突起に引っかけます。

* 通常縫いはできません。ご注意ください。

操作パネル



注意



・はずみ車を手前に回し、針を上げる。
針が生地に刺さった状態で、模様選択ダイヤルを回すと、針が折れ、ケガをする恐れがあります。

模様番号表示

模様番号

調節ボタン

針振り表示

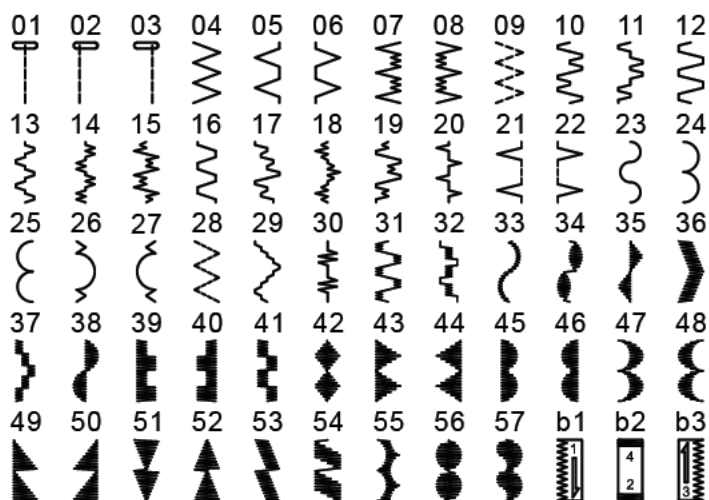


振り幅調節切り換えボタン

『操作パネル』の『調節ボタン』を押して、縫いたい模様の『模様番号』に合わせます。

*『調節ボタン』を長く押すと、『模様番号』を10ずつとばすことができます。

●縫い模様一覧



*『模様番号』の34～57の模様は『縫い目長さ調節ダイヤル』の数値を0～1の間に調節することを推奨します。

手持ちハンドル



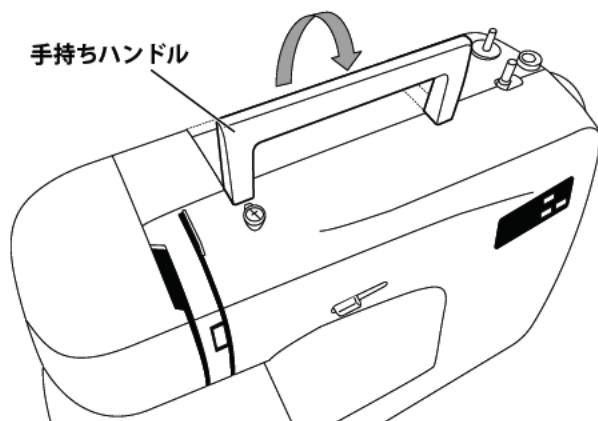
注意



・マシン本体は必ず手持ちハンドルを持って、持ち運びをしてください。
手持ちハンドル以外の部分を持つと破損したり、滑って落とし、ケガの原因になります。

・マシン本体を持ち運びするときは、急激・不用意な動作をしないでください。
ケガの原因になります。

<マシン上面図>



マシンを移動させるときは、『手持ちハンドル』に手を入れて、マシン本体を移動させます。

押え上げレバー



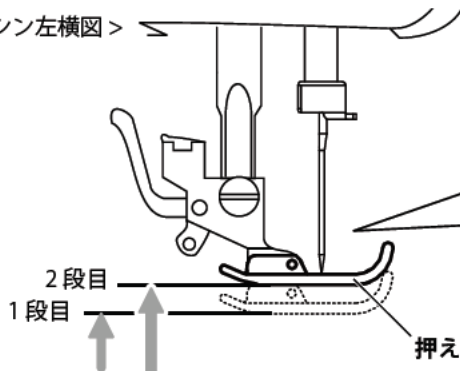
注意



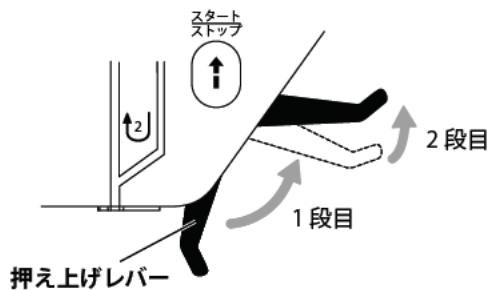
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

●押えの上げ・下げ

<ミシン左横図>



<ミシン正面図>



『押え上げレバー』を上げると、『押え』が上がります。
更に『押え上げレバー』を上げると、『押え』がもう一段上がる2段階式になっています。
*2段目では、『押え』の高さは固定できません。
*生地の厚みは1段目の高さを超えないようにしてください。

押えの取り外しかた・取り付けかた



注意

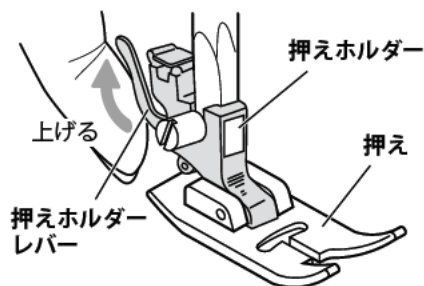


・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



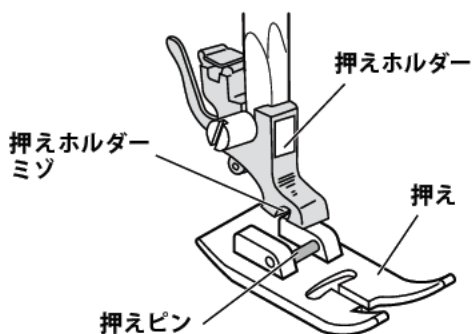
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

針を上げる



●押えの外しかた

- [1] 『はずみ車』を手前に回し、針を上げます。
- [2] 『押え上げレバー』を上げます。
- [3] 『押えホルダーレバー』を上げると、『押え』が外れます。



●押えの取り付けかた

- [1] 『針』と『押え上げレバー』を上げます。
- [2] 『押えピン』を『押えホルダーミゾ』の真下に置きます。
- [3] 『押え上げレバー』をゆっくり下げ、『押えピン』と、『押えホルダーミゾ』を合わせます。

*押えがセットされると『カチッ』と音がします。
*音がしない場合や押えがすぐに外れるときはもう一度『押えピン』と『押えホルダーミゾ』を合わせ直してください。

押えホルダーの取り外しかた・取り付けかた



注意

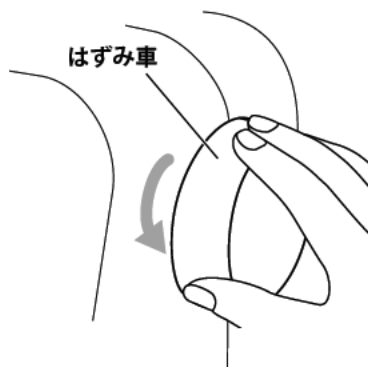


・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

< ミシン右横図 >

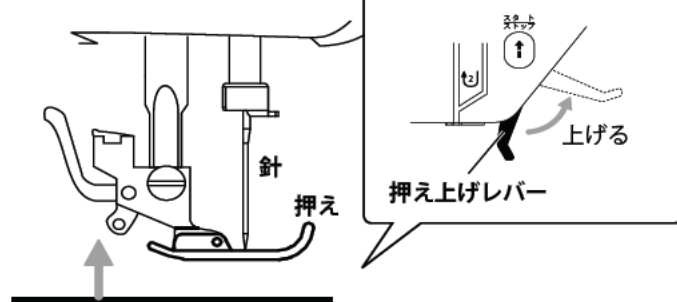


針を上げる

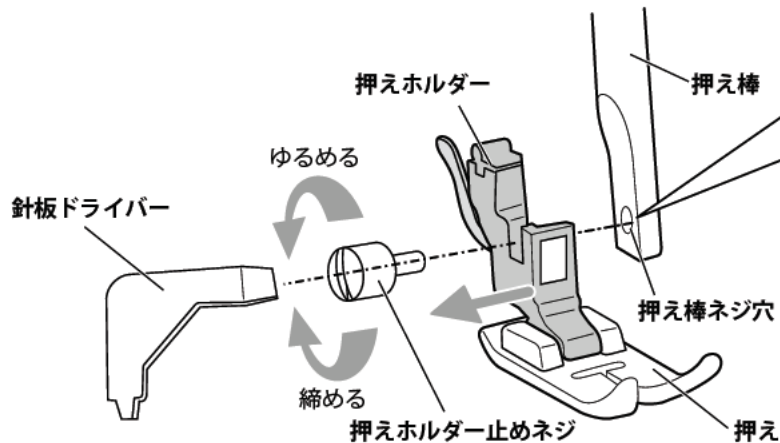


【1】『はずみ車』を手前に回して、『針』を上にします。

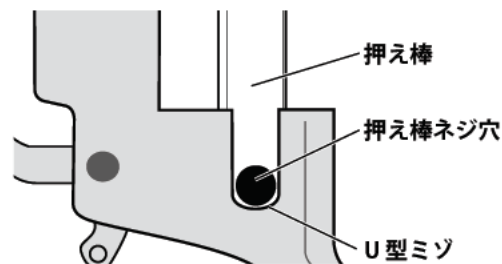
< ミシン正面図 >



【2】『押え上げレバー』で『押え』を上げます。



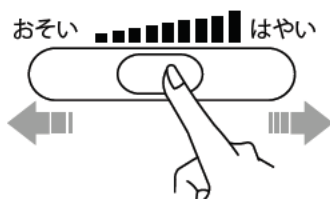
< 左側から見た図 >



【3】 外す : 『押えホルダー止めネジ』を『針板ドライバー』でゆるめ、『押えホルダー』を外します。
付ける : 『押えホルダーのU型ミゾ』と『押え棒ネジ穴』の位置を合わせ、『押えホルダー止めネジ』を『針板ドライバー』で強く締めます。

スピード調節つまみ

ミシンの運転速度を好みのスピードにセットします。



- ミシンの運転速度が遅い状態・・・
おそい : 『スピード調節つまみ』を左にスライドさせます。
- ミシンの運転速度が速い状態・・・
はやい : 『スピード調節つまみ』を右にスライドさせます。

電源を入れる前に

縫い損じを防ぐため、次のことを実施してください。



注意

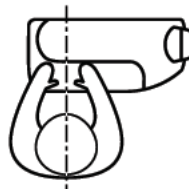


- ・安定した場所に設置する。・作業スペースを十分に確保する。
 - ・周囲に物を置かない。
- はずみ車や針など動く部分が露出しています。ケガの原因になります。

●ミシンをより快適に使うために



針先が無理なく見える位置にミシンを設置してください。



針の中心と身体の中心が一致するようにミシンを設置してください。

電源を入れる



警告



・死亡、火災、感電、ケガの恐れがあります。



- ・使用後は電源コードプラグを抜く。
- ・電源コードは電源コードプラグや電源コードコネクタを持って、抜き差しする。

電源コードを引っ張ると、電源コード部分が破損し、死亡、火災、感電、機器故障の原因になります。



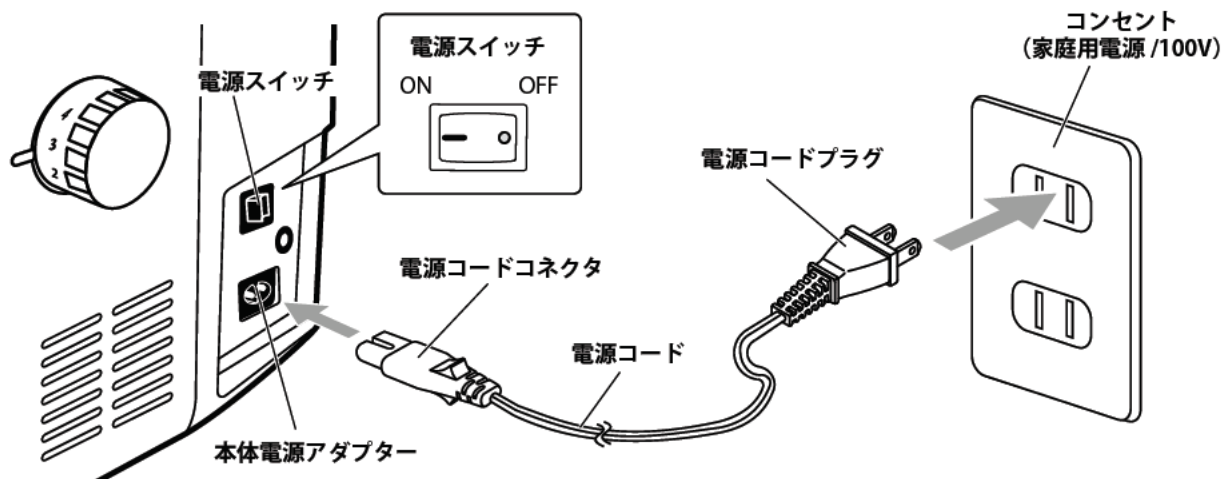
- ・濡れた手で電源コードプラグや電源コードコネクタを抜き差ししない。



注意



- ・電源スイッチを『OFF』にする。・はずみ車や針周辺に手や物を置かない。
- 突然動くとケガをする恐れがあります。

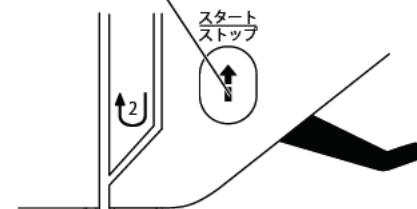


- [1] 『電源スイッチ』を『OFF』にします。
- [2] 『電源コードコネクタ』をミシン側の『本体電源アダプター』に差し込みます。
- [3] コンセント (家庭用電源 / 100V) に『電源コードプラグ』を差し込みます。
- [4] 『電源スイッチ』を『ON』にします。
(『ランプ』や『操作パネル』が点灯します)

*『電源スイッチ』を『ON』にすると、起動音が鳴り、針が動きますが故障ではありません。

- [5] 『スタート/ストップボタン』を押すと、ミシンは動き始めます。
- [6] もう一度、『スタート/ストップボタン』を押すと、ミシンは停止します。

スタート/ストップボタン



ボビンの取り出しかた



注意



・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

<ミシン右横図>

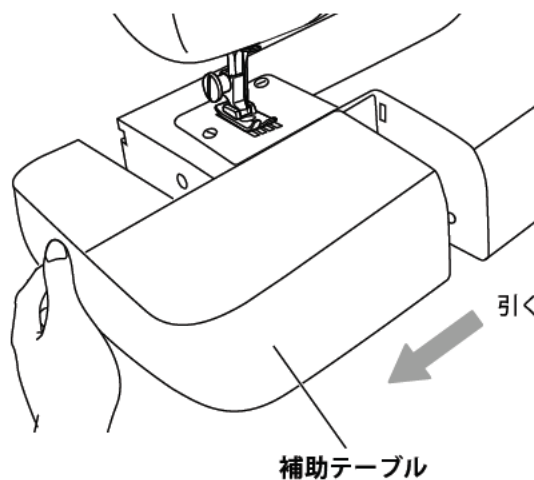


はずみ車

針を上げる



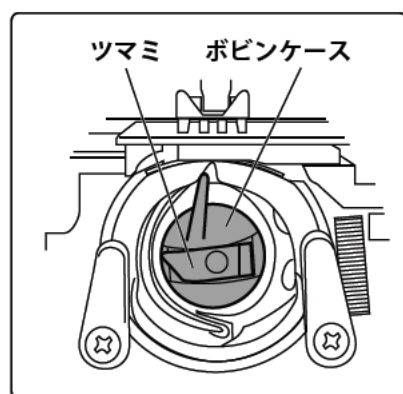
【1】『はずみ車』を手前に回し、『針』を上にします。



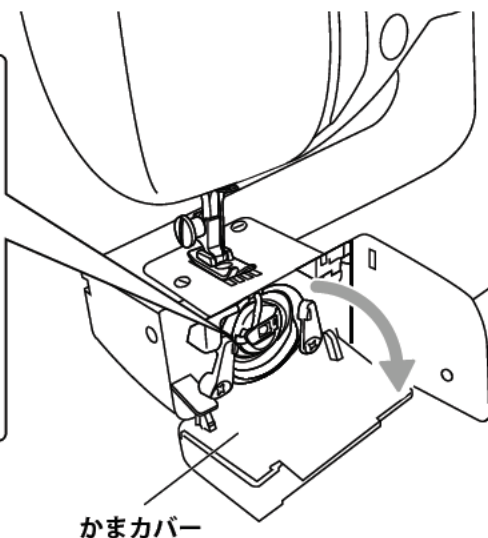
引く

補助テーブル

【2】『補助テーブル』を外します。

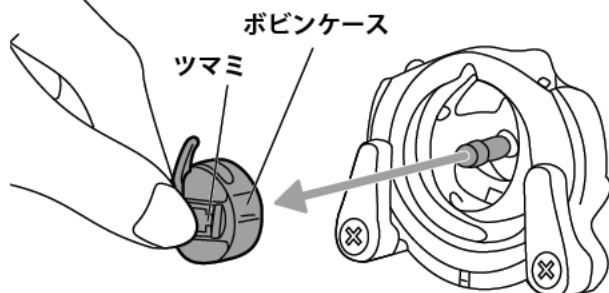


ツマミ ボビンケース



かまカバー

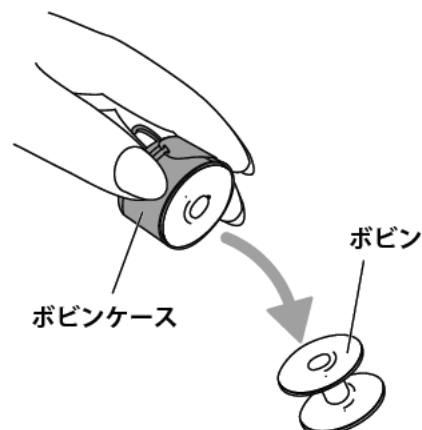
【3】『かまカバー』を開きます。



ボビンケース

ツマミ

【4】『ツマミ』をおこし、つまんだまま引き抜きます。



ボビンケース

ボビン

【5】『ツマミ』を閉じると中の『ボビン』を取り出せます。

下糸の巻きかた

* ボビンは家庭用プラスチックボビン（高さ 11.5mm×直径 20.5mm）をご使用ください。
（異なるボビンをご使用しますとミシンの故障の原因になる恐れがあります）



注意

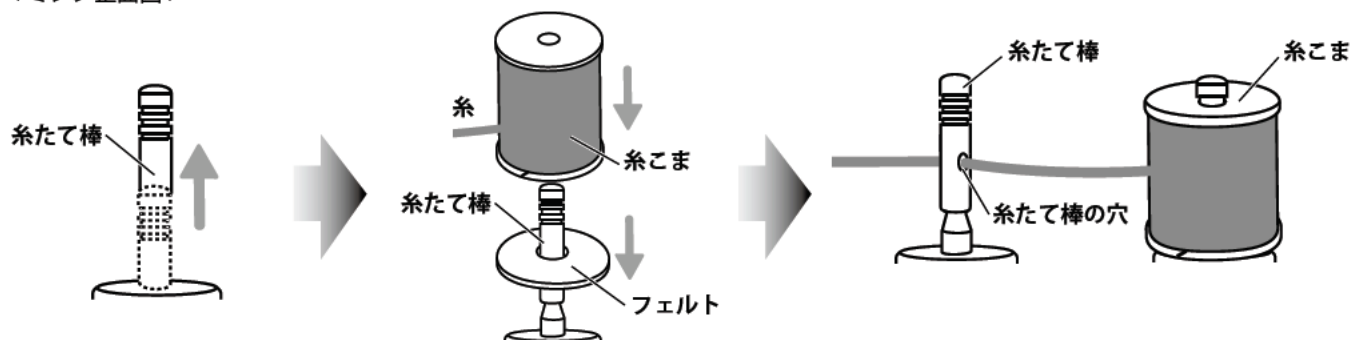


・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



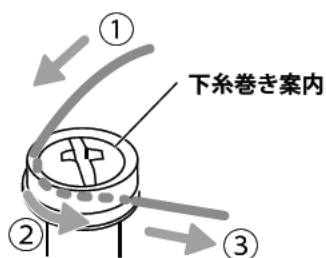
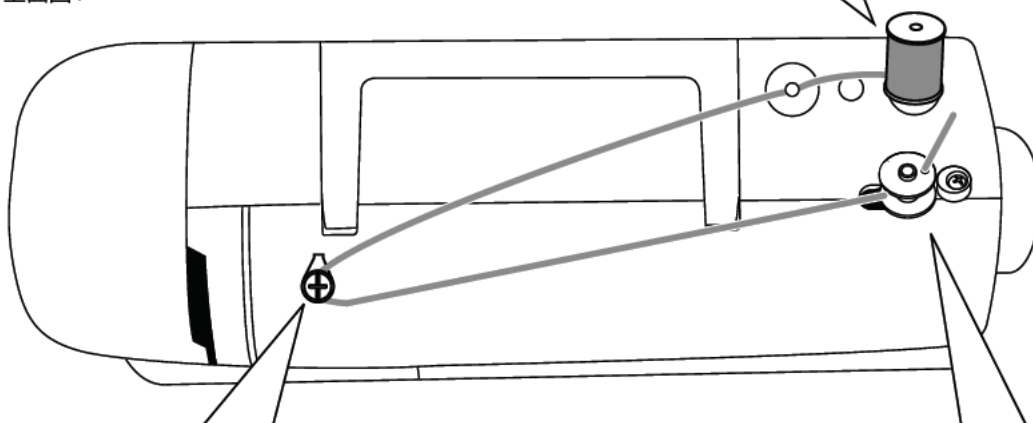
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

< ミシン正面図 >

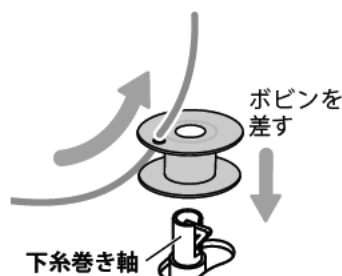


- 【1】 右側の『糸たて棒』を伸ばし、『糸たて棒』に『フェルト』『糸こま』の順に奥まで差し込みます。
左側の『糸たて棒』を伸ばし『糸こま』からの糸を、『糸たて棒の穴』に挿入します。

< ミシン上面図 >

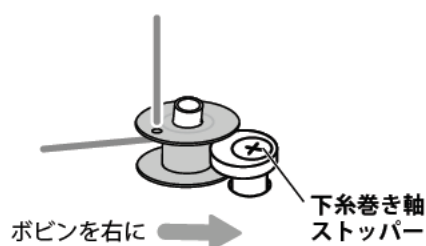
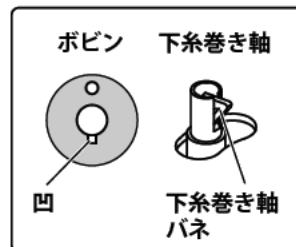


- 【2】 『下糸巻き案内』にしっかり奥まで糸をかけます。



- 【3】 『ボビン』の穴に内側から糸を通し、『下糸巻き軸』に『ボビン』を差します。

*『ボビン』の凹と『下糸巻き軸』のバネを合わせるようにボビンを入れます。

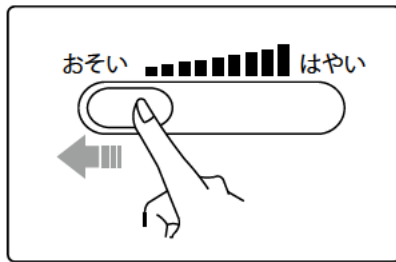
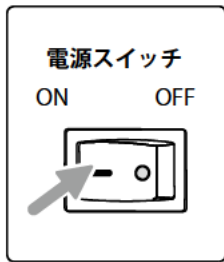


- 【4】 『下糸巻き軸』を右に移動させます。

< 操作パネル >



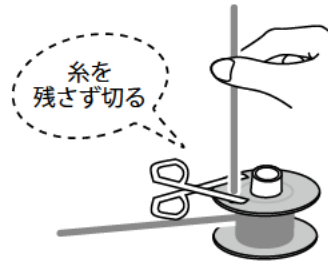
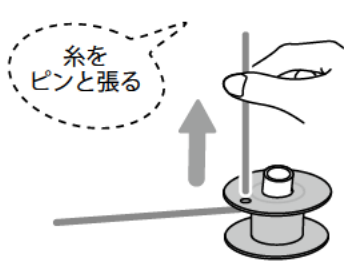
『下糸巻き軸』を右に移動させると、
『操作パネル』が下糸巻き状態になります。



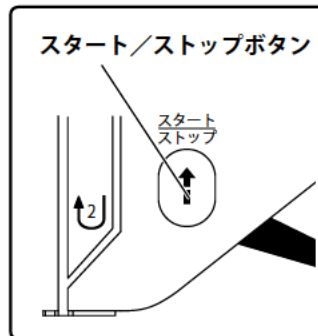
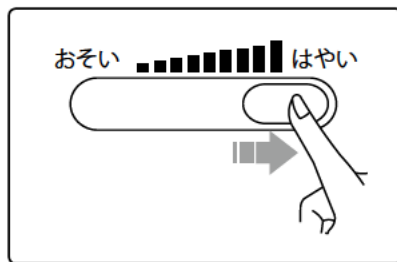
- 【5】『電源スイッチ』を『ON』にします。
 (『ランプ』や『操作パネル』が点灯します)

*『電源スイッチ』を『ON』にすると、起動音が鳴り、針が動きますが故障ではありません。

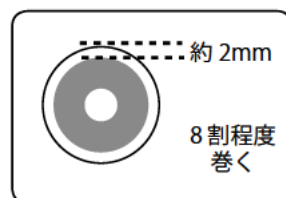
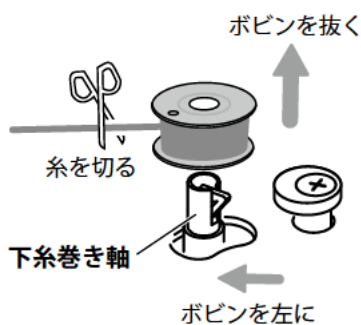
- 【6】『スピード調節つまみ』を『おそい』にします。



- 【7】糸の端を持ったまま『スタート/ストップボタン』を押し、『ボビン』に5、6回転させ、糸を巻き付けます。ミシンを一度止め、持っていた糸を『ボビン』の穴から残さず切ります。



- 【8】『スピード調節つまみ』を『はやい』にして、再度『スタート/ストップボタン』を押し、糸を巻きます。



- 【9】糸が巻き終わったら『スタート/ストップボタン』を押してミシンを止めます。
 『下糸巻き軸』を左に戻し、『ボビン』を抜きます。

下糸のセット



注意

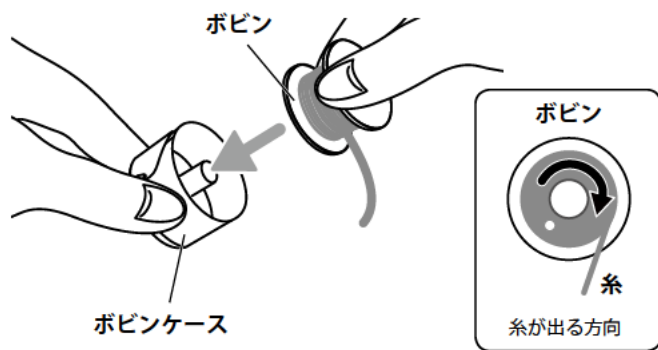


・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くケガをする恐れがあります。

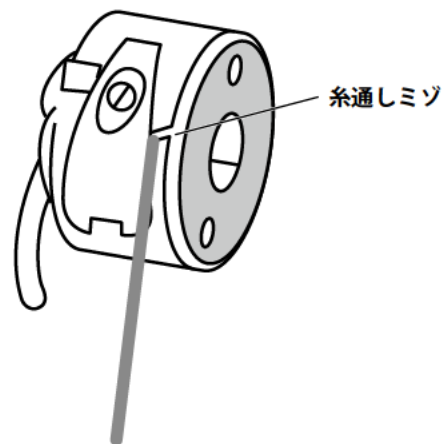


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

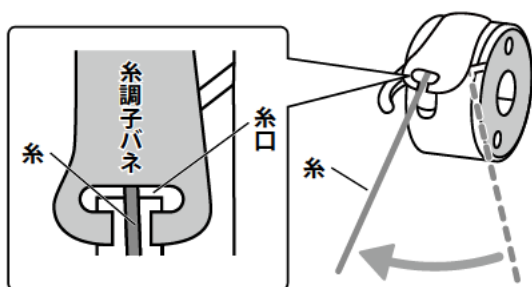
● ボビンケースにボビンをセット



- 【1】『ボビン』から糸を 10cm ほど引き出し、糸が右回りになるように『ボビンケース』の中に入れます。



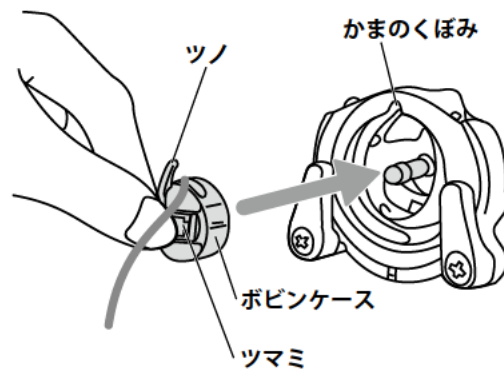
- 【2】糸の端を持ち、『ボビンケース』の『糸通しミツ』に入れます。



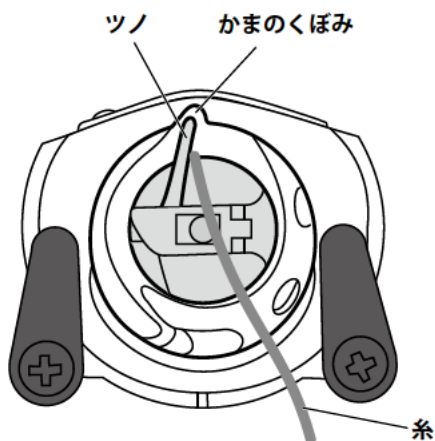
- 【3】『ボビン』が回転しないように、押えながら糸を左に引き、『糸口』まで糸を引きます。

* 糸を引いたとき、『ボビン』がスムーズに回転しない場合は『ボビン』や『ボビンケース』が変形している恐れがあり、どちらかの部品を交換してください。

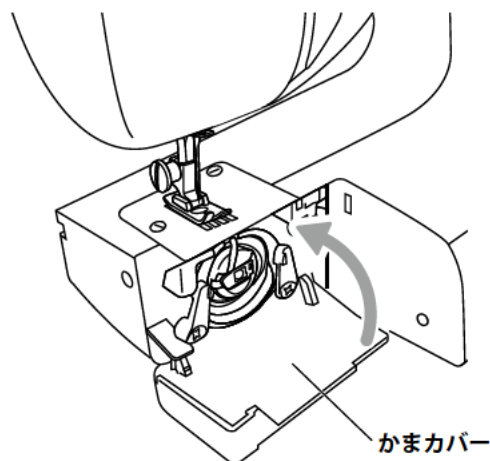
● ボビンケースをかまにセット



- 【4】『ツマミ』を持ち、『ツノ』を『かまのくぼみ』に入るように合わせて奥まで差し込みます。



- 【5】『ボビンケース』が固定されたことを確認して糸を手前にたらししておきます。



- 【6】『かまカバー』を閉じ、『補助テーブル』を取り付けます。

上糸のかけかた



注意

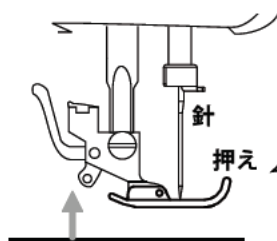


・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。

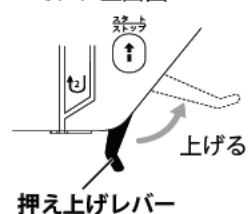


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

準備



<ミシン正面図>



『押え上げレバー』で『押え』を上げます。

*『押え』を下げた状態で上糸を通すと、糸の調子が取れず、糸絡みの原因にもなります。

針を上げる <ミシン右横図>



はずみ車



ミシン本体の
合わせ線

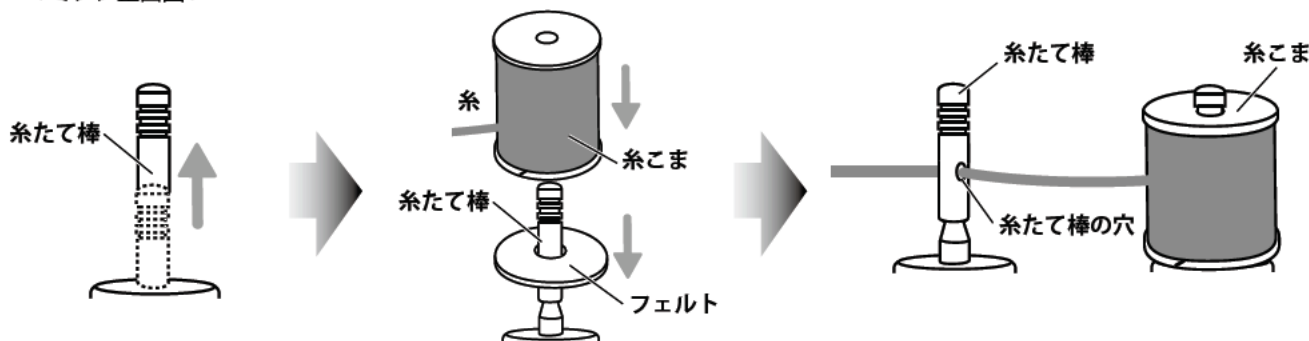
はずみ車



はずみ車の
マーク

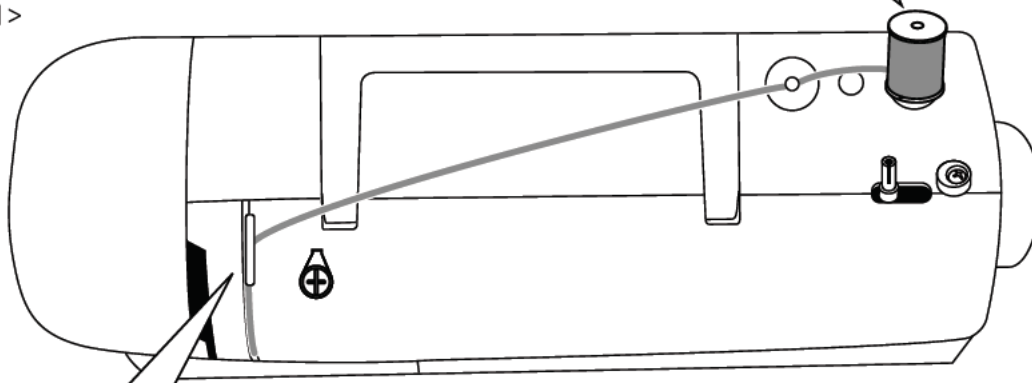
『はずみ車』を手前に回し、『はずみ車のマーク』と『ミシン本体の合わせ線』を合わせます。

<ミシン正面図>

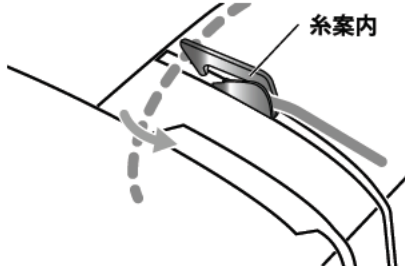


【1】 右側の『糸たて棒』を伸ばし、『糸たて棒』に『フェルト』『糸こま』の順に奥まで差し込みます。
左側の『糸たて棒』を伸ばし『糸こま』からの糸を、『糸たて棒の穴』に挿入します。

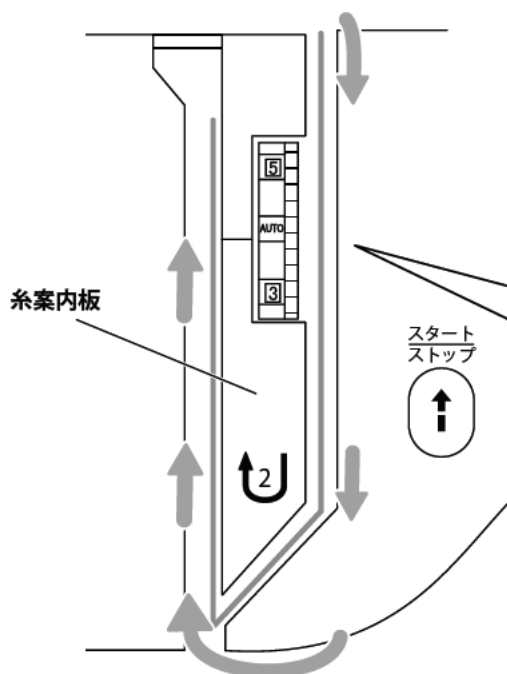
<ミシン上面図>



糸案内

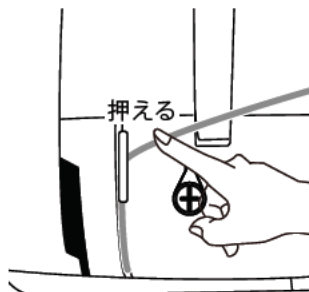


【2】 『糸案内』に糸をかけます。

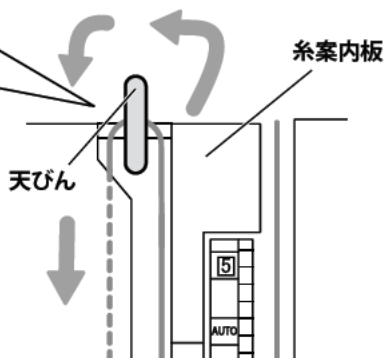
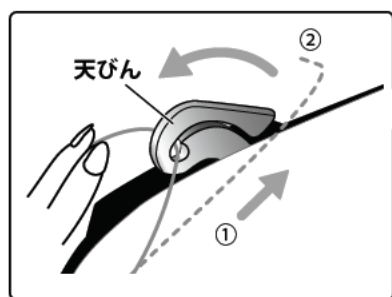


- 【3】『糸案内板』にそって糸を下ろし、左上に引き上げます。

< ミシン上面図 >



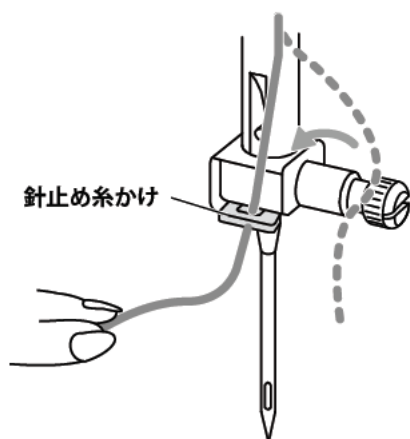
*ポイント
『糸案内』からの糸を
押えながら『糸案内板』に
糸を通すことで、
糸が『糸案内板』の奥まで
しっかり通ります。
糸絡み防止にもつながります。



- 【4】『糸案内板』にそって上げた糸を
『天びん』に右から左に糸を通します。

- 【5】『天びん』から『糸案内板』にそって、
糸を下ろします。

*『はずみ車』を手前に回して、『天びん』に
糸がかかっているか確認してください。



- 【6】糸を『針止め糸かけ』に通します。
*右側から糸を通すと通しやすいです。

針穴糸通し器



注意



・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



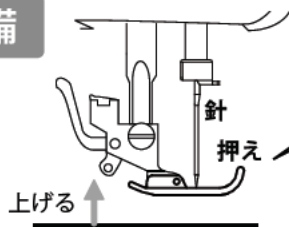
・針先や針穴糸通しガイド・糸通しフックに注意する。
ケガをする恐れがあります。

注意：間違った使い方をするると針穴糸通し器が破損します。

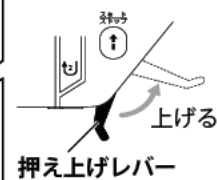


・曲がった針は使用しない。 ・針の太さを# 14 より細い針を使用しない。 ・糸の太さを# 40 より太い糸を使用しない。

準備



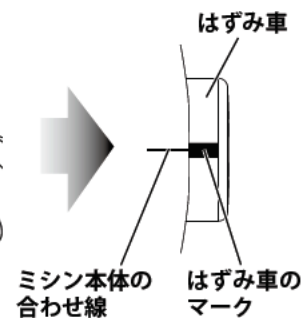
<ミシン正面図>



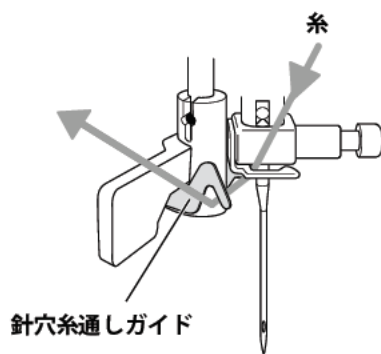
『押え上げレバー』で『押え』を上げます。

*『押え』を下げた状態で上糸を通すと、糸の調子が取れず、糸絡みの原因にもなります。

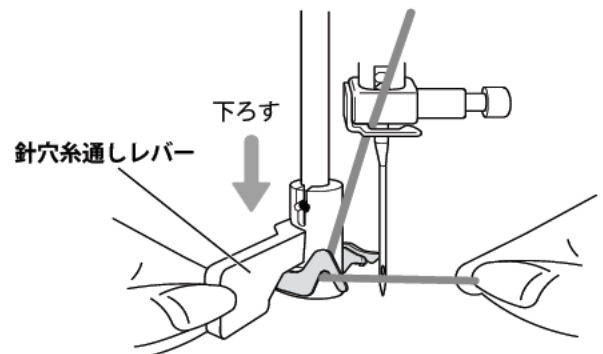
針を上げる <ミシン右横図>



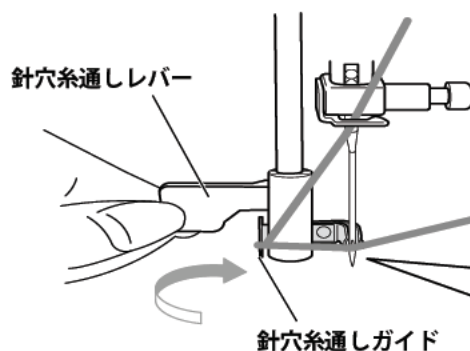
『はずみ車』を手前に回し、『はずみ車のマーク』と『ミシン本体の合わせ線』を上げます。



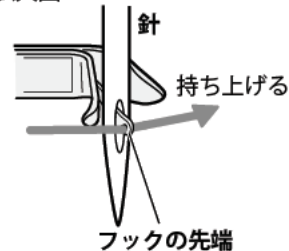
【1】 糸の端を持ち『針穴糸通しガイド』に糸をかけます。



【2】 糸の端を右手で持ったまま、左手で『針穴糸通しレバー』をゆっくり一番下まで下します。

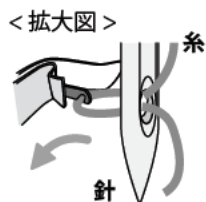
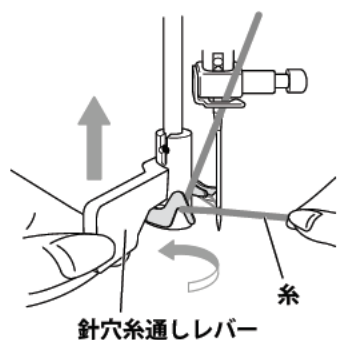


<拡大図>

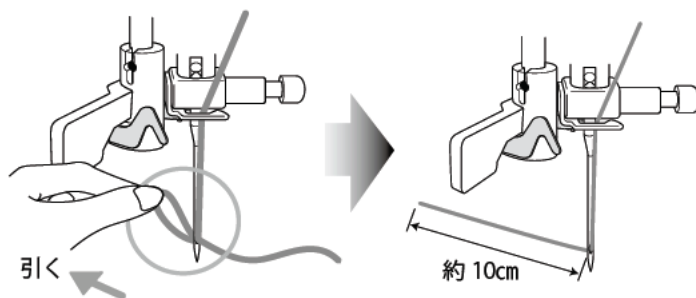


【3】 一番下まで下ろしたら、『針穴糸通しレバー』を左へ回転させると、『糸通しフックの先端』が針の穴に通ります。

【4】 『針穴糸通しガイド』にかけた糸を右奥に引っ張り、その後、糸を持ち上げます。



- 【1】 糸の端を軽く持ちながら、『針穴糸通しレバー』をゆっくり回転させて、上げます。



- 【2】 『針穴糸通しレバー』を離すと同時に針の後方に糸の輪ができます。
糸の輪を引っ張り、後ろに約 10cm 引き出します。

下糸の引き上げかた



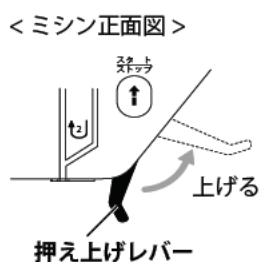
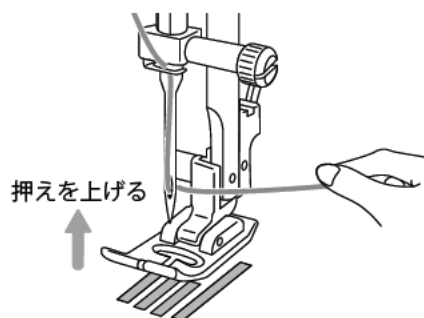
注意



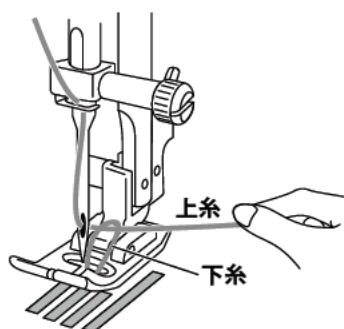
・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとかげをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



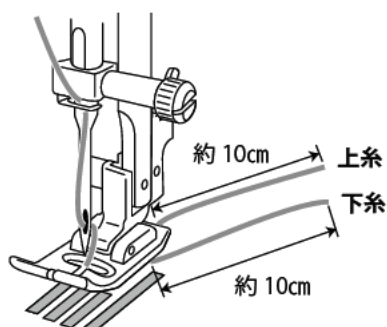
- 【1】 『押え』を上げ、『上糸』の端を持ちます。



<ミシン右横図>



- 【2】 『はずみ車』を手前に 1 回転させ針を上げると、下糸の輪が引き出されます。
上糸の端を引いて下糸の輪をつまみ、下糸を引き上げます。



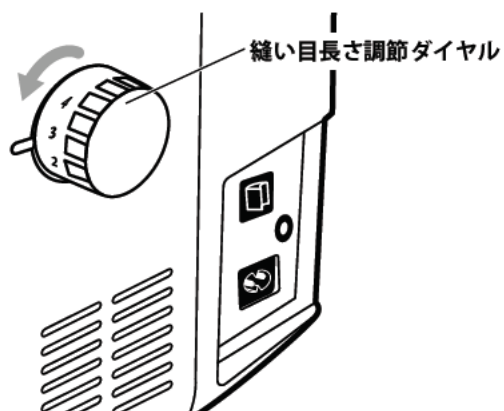
- 【3】 上糸と下糸をそろえ、『押え』の下に約 10cm 引き出します。

縫い目の長さを変える

● 縫い目長さ調節ダイヤル

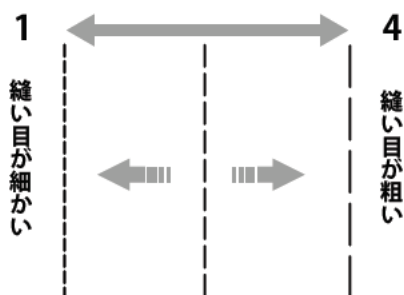
『縫い目長さ調節ダイヤル』で調節すると、縫い目の長さが変わります。

< ミシン右横図 >



数値を小さくすると、縫い目の長さが細くなります。

数値が大きくなると、縫い目の長さが粗くなります。



針の位置を変える

● 振り幅調節

『振り幅調節切り換えボタン』を押し『針振り幅表示』のマークの表示が確認できたら『調節ボタン』で調節すると、針の位置が変わります。

< 操作パネル >



逆三角ボタン



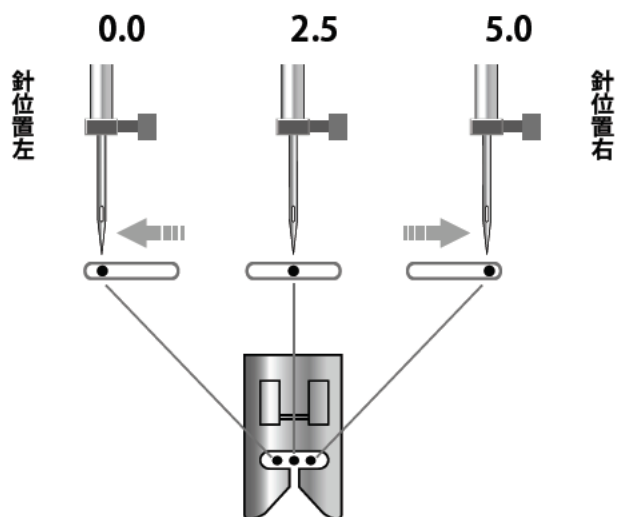
数値を小さくすると、針の位置が左に移動します。

三角ボタン



数値が大きくなると、針の位置が右に移動します。

* 直線縫い模様の場合



直線縫い



注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

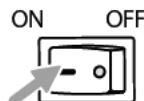
押え	模様表示
 ジグザグ押え 直線押え	01 注意 ・直線押えは針振り幅 5.0 でご使用ください。 (P19 の針の位置を変えるを参照) 針振り幅 5.0 以下で使用すると針が折れケガをする恐れがあります。

準備



← 左に!
下糸巻き軸

『下糸巻き軸』を左側にします。
(軸が右にあると針が動きません)

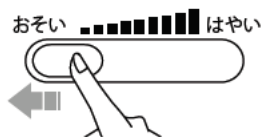


『電源スイッチ』を
『ON』にします。

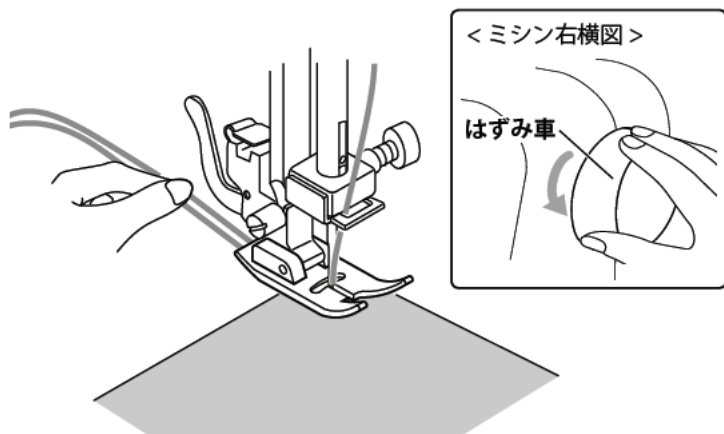


調節ボタン

『調節ボタン』で
直線縫いの模様を選択します。
(直線縫いの模様の数字は、01 です)



『スピード調節ツマミ』を
『おそい』にします。

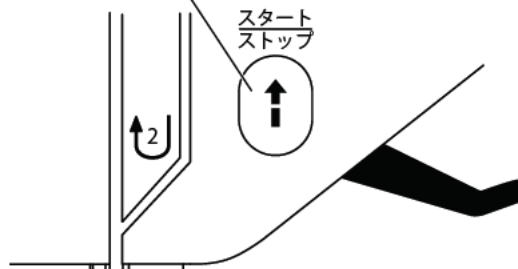


< ミシン右横図 >



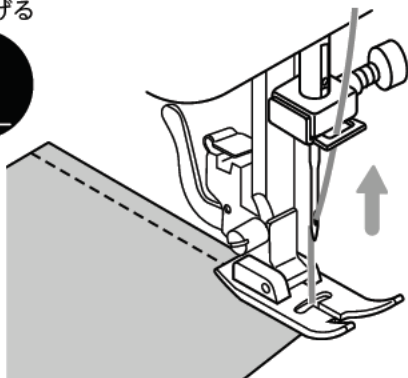
- 生地を『押え』の下に置き、『上糸』と『下糸』をミシン後方に少し引っ張りながら『はずみ車』を手前に回して、縫い始める位置に針を刺します。
- 『押え』を下げます。

スタート/ストップボタン

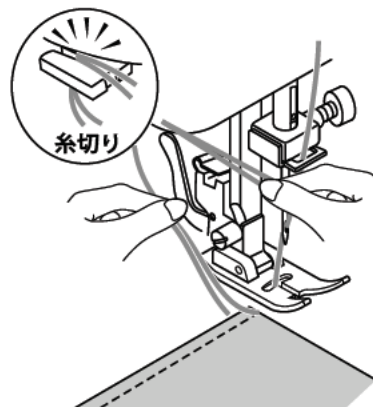


- 『スタート/ストップボタン』を押し、縫い始めます。
- 生地に手を軽くそえ、生地の進む方向を修正・補助します。
- 縫い終わりましたら『スタート/ストップボタン』を押し、ミシンを止めます。

針を上げる



- 『はずみ車』を手前に回して、針を上げます。



- 『押え上げレバー』を上げ、生地を引き出します。その後、『糸切り』で糸を切ります。

* 薄地や送りの悪い生地を縫うときは、ハترون紙などの紙を生地の下に敷くと順調に縫うことができます。

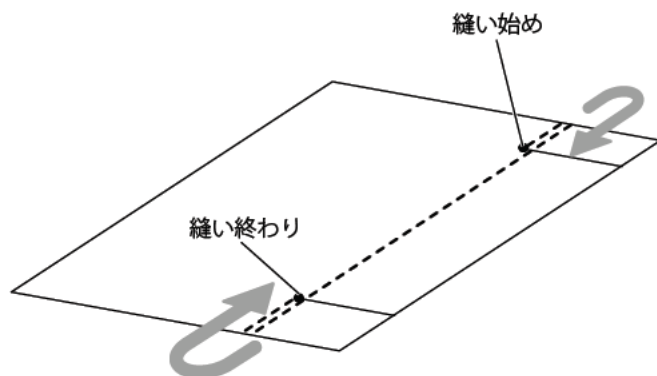
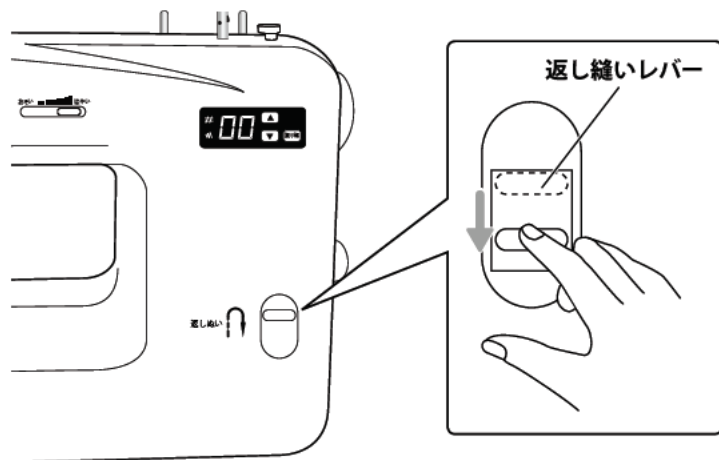
返し縫い



注意



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

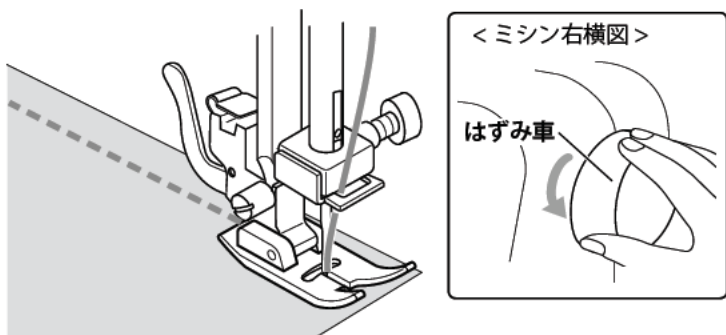


ミシンが動いているときに、『返し縫いレバー』を押し下げている間は返し縫いになります。

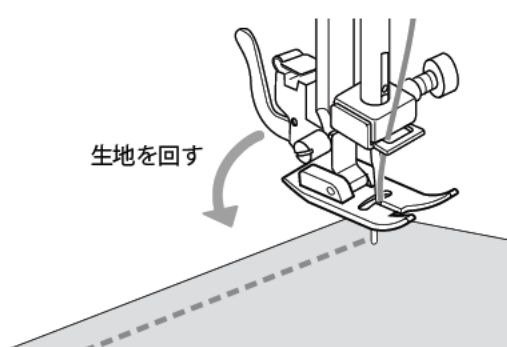
*縫い始めと縫い終わりに返し縫いを行うとほつれ止めになります。

*生地の手前の寸前から返し縫いを行うと、生地が食い込んでしまう場合があります。

縫い方向を変える



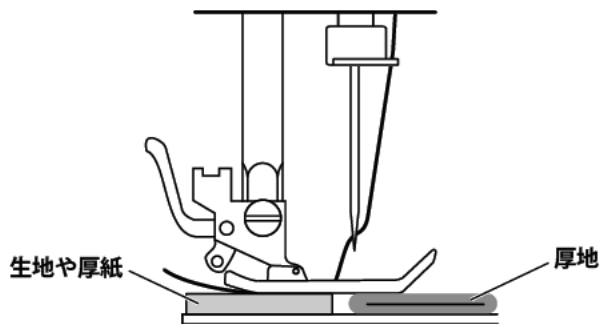
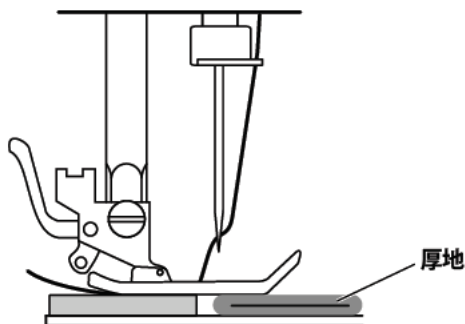
- [1] 生地の手前まで縫い、ミシンを停止し、『はずみ車』を手前に回し、針を一番下まで下げます。
*針が一番下まで下がっていないと糸絡みの原因になります。



- [2] 『押え』を上げ、針を軸にして生地を回転させ縫い方向を変えます。
再び、『押え』を下げ、縫い始めます。

厚地や段差を縫う

縫い始めや段差を縫うとき



厚地を生地の端から縫い始めると『押え』が傾き、生地が進まなくなることがあります。

その場合、『押え』の下に生地と同じ厚さの生地や厚紙を置き、傾きをなくすと順調に縫い始めることができます。

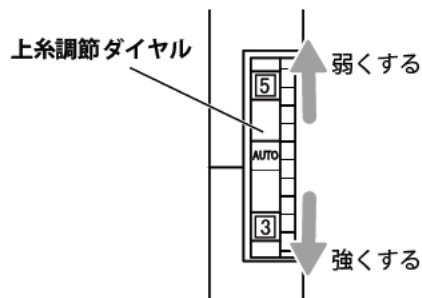
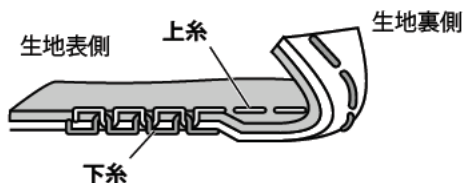
*厚地を縫うときは、市販の家庭用ミシン針:16番をご使用されることをおすすめします。

糸調子の合わせかた

糸調子が合わない場合は、上糸調節ダイヤルを回して調節してください。

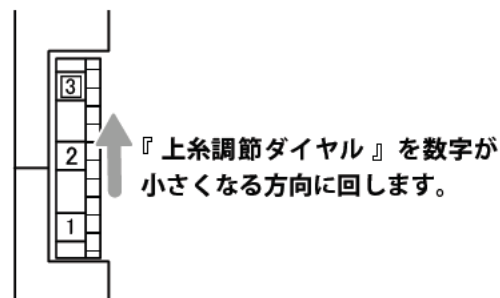
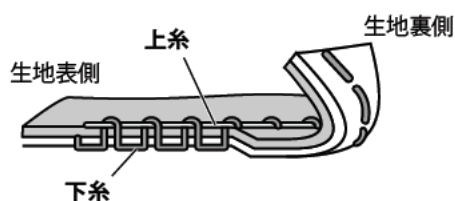
●正しい糸調子

上糸と下糸が生地のほぼ中央で交わります。



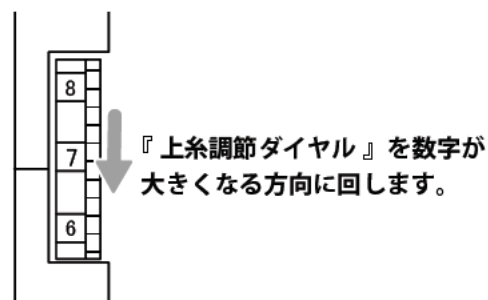
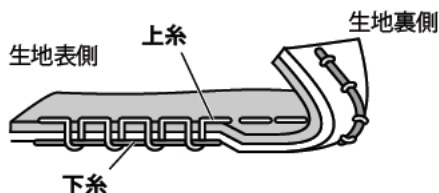
●上糸が強いとき

下糸が生地の表に出ています。



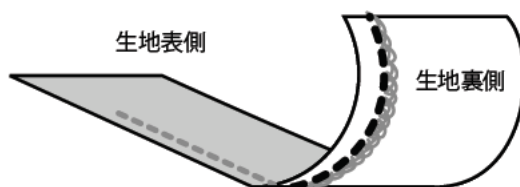
●上糸が弱いとき

上糸が生地の裏に出ています。



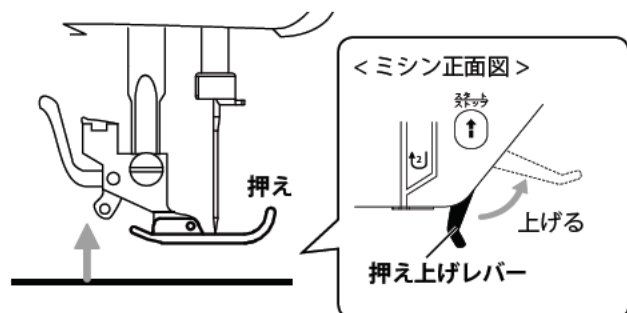
●生地の裏側の糸がタオル地のようになるときは

- ・上糸の糸調子が弱い。
- ・『押え上げレバー』が上がっている。
- ・『天びん』から上糸が外れている。
- ・上糸のかけかたが間違っている。
- ・糸が太すぎる (太さ #40 までです)
- ・針に不具合が生じている。

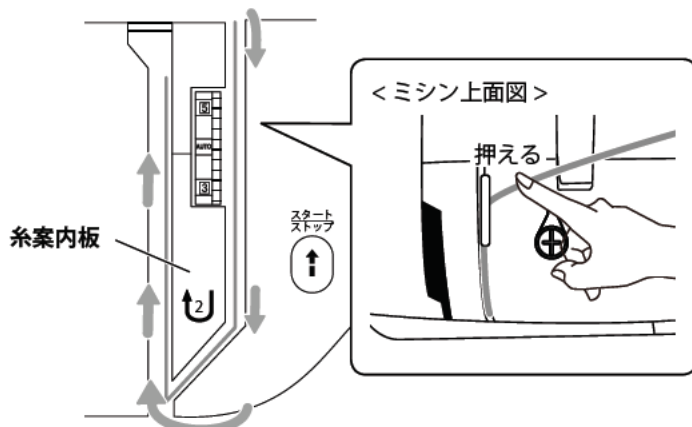


ポイント！

『押え』を上げ、ミシンから上糸を全て外し、上糸を再度正しくかけ直してください。
(P15 ~ P16 上糸のかけかたを参照)

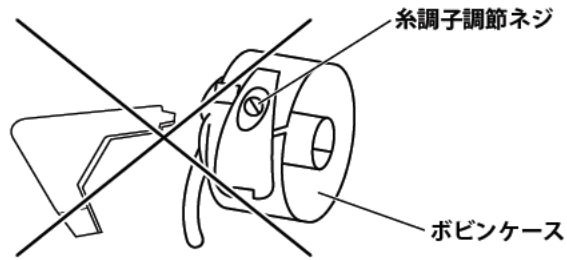


『押え上げレバー』で『押え』を上げる。



『糸案内』からの糸を押えながら『糸案内板』に糸を通すことで、糸が奥までしっかり通ります。
糸絡み防止にもつながります。

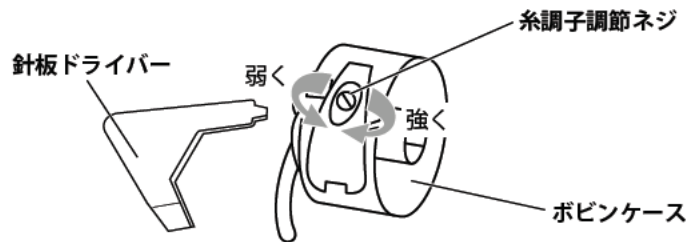
- ボビンケースの糸調子は『上糸調節ダイヤル』 AUTO の位置で上糸と下糸の糸調子が合うように調節してあります。



- * 糸調子が合わないときは糸をかけなおすか、『上糸調節ダイヤル』で調節してください。

- ボビンケースを紛失するなど、製品付属品以外のボビンケースを使用する時には・・

- * ボビンケースの紛失されたなどで、標準装備以外のボビンケースを使用する場合は下記方法で、糸調子を調節してからご使用ください。



上下糸調子が合わない場合は、ブロードの生地 2 枚重ねで上下同一の糸で試し縫いを行い、生地の中央で糸が交差するように (P22 の糸調子の合わせかたを参照ください)、付属の『針板ドライバー』で『ボビンケース』の『糸調子調節ネジ』を回し、調節してからご使用ください。

針、糸、生地の関係

きれいに縫うためには、生地に合った針と糸をご使用ください。(下記の表を参照)

上糸と下糸は同じ種類・同じ太さの糸をご使用ください。

針は家庭用ミシン針 (HA × 1)、糸は家庭用ミシン糸とご指定の上お買い求めください。

(工場出荷時、ミシン本体には 11 番の針が装備されています)

- * 下記の表はあくまで参考です。必ず試し縫いをして、縫い目をご確認ください。

	生地の種類	針の種類・番号	糸の種類・番号
薄地	一般裏地、ローン、ジョーゼット、レース、キュプラ など	9、11 番	綿 60 ～ 100 絹 50 ～ 90 化繊糸 60 ～ 90
普通地	一般服地、ブロード、ソフトデニム、サテン、パイル、ギンガム など	11、14 番	綿 60 ～ 90 絹 50 ～ 90 化繊糸 60 ～ 90
厚地	キルティング、フリース、ツイード、デニム、フェルト など	14、16 番	綿 40 ～ 50 絹 50 化繊糸 50 ～ 60
伸縮地	ニット、トリコット、スパンデックス、ジャージ など	ニット用針 11、14 番	綿 60 化繊糸 50 ～ 90 ニット用糸 50 ～ 90

- * 針は数字が大きくなるほど太くなります。 * 糸は数字が大きくなるほど細くなります。
- (針の交換方法は P36 の針の取り替えかたをご参照ください)

- * 16 番、ニット用針 11、14 番は、付属されていません。

ジグザグ縫い／縁かがり縫い

生地端のほつれを防止します。



注意



・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



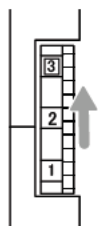
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示
 ジグザグ押え	04 09

押え	模様表示
 縁かがり押え	04 注意 針振り幅 4.5 ～ 5.0 でご使用ください。 (P19 の針の位置を変えるを参照) 針振り幅 4.5 以下で使用すると針が折れ ケガをする恐れがあります。

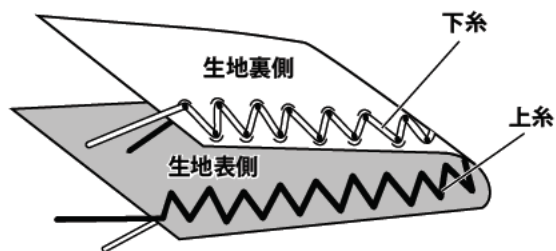
ポイント！

直線縫いよりも
『上糸調節ダイヤル』を
少し弱めにすると
きれいに縫えます。



● ジグザグ縫い

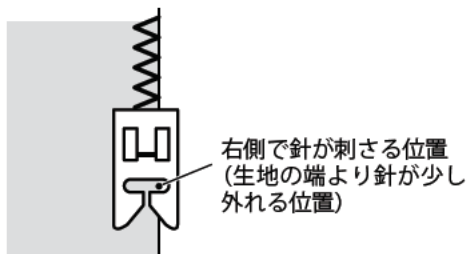
- 『操作パネル』の『調節ボタン』で、ジグザグ模様を選択します。
- 『押え』を下げ、縫い始めます。



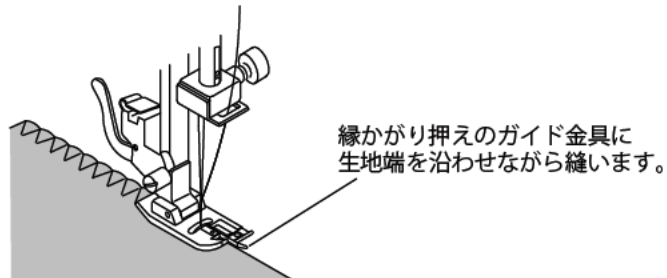
● 縁かがり縫い

- 『操作パネル』の『調節ボタン』で、ジグザグ模様を選択します。
- 『操作パネル』の『振り幅調節切り換えボタン』を押し、『調節ボタン』で針振り幅を 2.5、縁かがり押えを使用時は 4.5 ～ 5.0 に選択します。
- 『はずみ車』を手前に回して針が右にきたときに、生地端より針が少し外れるように生地を置き、『押え』を下げ、縫い始めます。

【ジグザグ押え使用時】



【ジグザグ押え使用時】



アップリケ

市販や自作のアップリケ布を別生地の上に縫い付けます。



注意

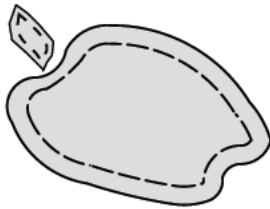


・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

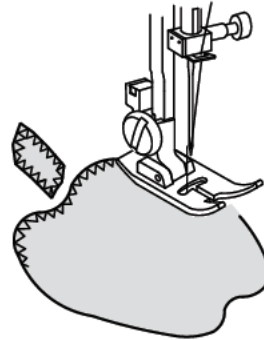


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示
 ジグザグ押え	04



【1】 アップリケ布を生地にしつけ、
または布用ボンドで仮止めします。



【2】 アップリケ布の回りを縫い付けます。
*縫い方向を変えるときは、アップリケ布の外側に
針を刺し、押えを上げ、生地全体を回します。

パッチワーク (つき合わせ)

色々な生地をつなぎ合わせ、装飾や衣類の破れなどの補修にも用います。



注意

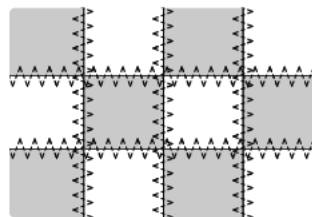


・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

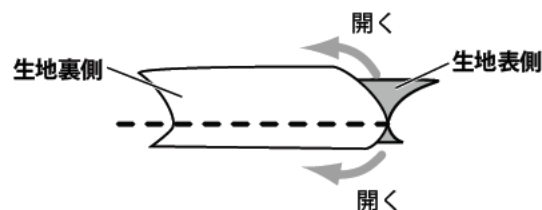


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

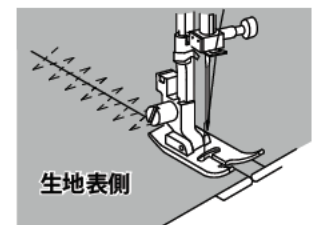
押え	模様表示
 ジグザグ押え	09



【1】 2枚の生地を中表にし、直線縫いで
縫い合わせます。



【2】 縫い合わせを開きます。



【3】 両方の生地に模様が
またがるように縫います。

ゴムテープ付け

袖口などのゴム付けをきれいに縫えます。



注意



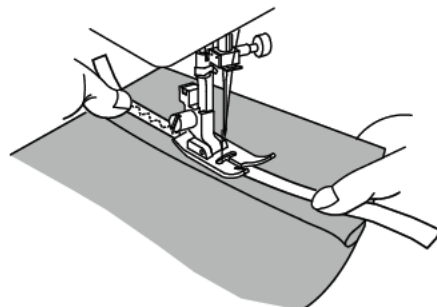
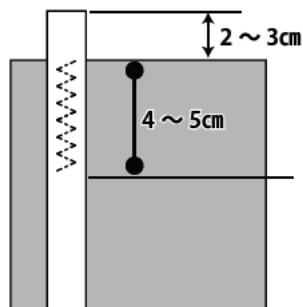
・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示
 ジグザグ押え	09

*ゴムテープは用途の長さより4～6cm長めに切ります。



【1】 生地に対しゴムテープを2～3cmはみ出し、4～5cmを縫い、ミシンを止めます。

(4～5cmを縫っている間は、ゴムテープは伸ばさないでください)

【2】 縫い終わり側のゴムテープ端を伸ばして、生地と一緒に押えながら縫います。

*ゴムテープは伸ばしたまま生地がシワにならないように縫い付けます。

目飛びをするときは、針をニット用針に交換してください。『ニット用針』は付属されていません。

*生地裏に糸がたるんでいる場合は、上糸の糸調子を強くします。

スカラップ

子供服やテーブルクロスなどの生地端を装飾するときに用います。



注意

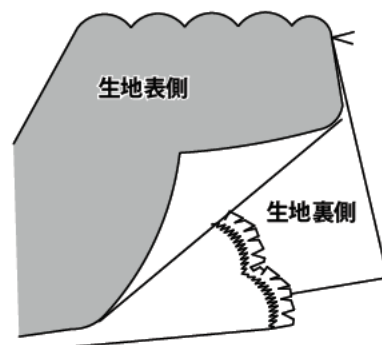
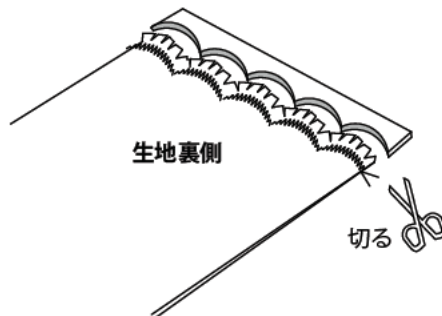
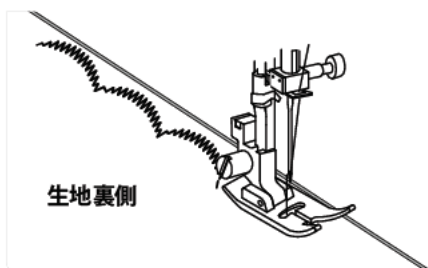


・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。



・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示
 ジグザグ押え	47



【1】 2枚の生地を中表にし、生地端にそって縫い合わせます。

【2】 縫い目から3cmのところを輪郭にそって生地端を切ります。
*切り落とした後の縫い代に、細かく切り込みを入れておきます。

【3】 生地を内側に返し、輪郭を整えます。

ピンタック

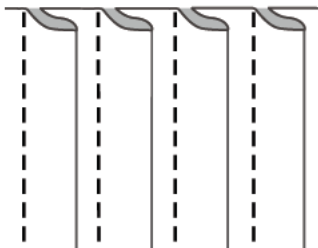


注意

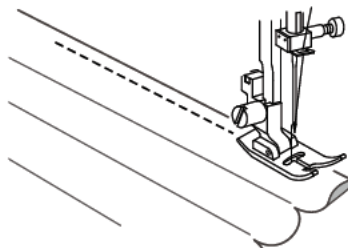


- ・縫い模様を選択するときは、針を上げる。 針が折れ、ケガをする恐れがあります。
- ・針先に注意する。 ケガをする恐れがあります。

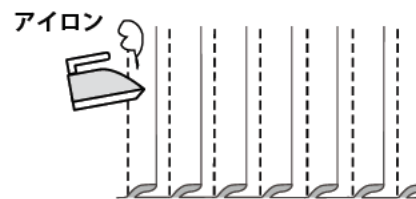
押え	模様表示
 ジグザグ押え	01 



【1】 アイロンでピンタックの折山を整えます。



【2】 折山を伸ばさないようにピンタックを縫います。



【3】 アイロンで片側に倒します。

上送り押え

ビニールレザー、ニット、薄地、滑りやすい生地、長い縫い合わせのときに起こる縫いズレなどに使用すると便利です。

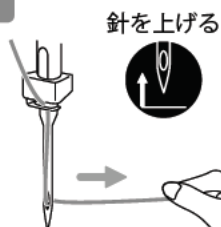


注意



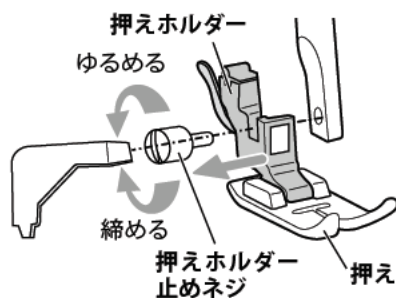
- ・押え交換時、電源スイッチを『OFF』にする。 突然動くとケガをする恐れがあります。
- ・針先に注意する。 ケガをする恐れがあります。

準備



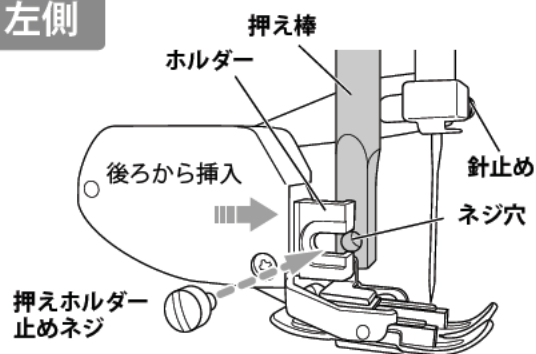
針を上げる

針を一番上にし、糸を針穴へ通します。

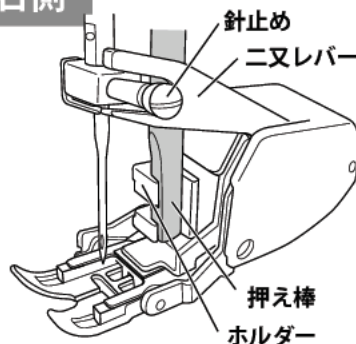


押えホルダーを上げ、押えホルダー止めネジ、押えホルダーと押えを外します。(P9をご参照ください)

左側



右側



- 【1】 上図のように、『押え棒』の左側から『上送り押え』の『二又レバー』を『針止め』に差し込みながら『ホルダー』を『押え棒』に合わせます。
- 【2】 『ホルダー部のミゾ』から『ネジ穴』が見えるところで、『押えホルダー止めネジ』を『針板ドライバー』で締めます。
- 【3】 『はずみ車』を回しスムーズに動くのを確認します。

*取り付けが終わったら、縫い始められます。

*『上送り押え』の箱に入っている使用説明用紙も合わせてご参照ください。

まったり縫い（ブラインドステッチ）

スカートやズボンの裾上げをするときに用います。
生地の上に目立たない縫い目です。



注意

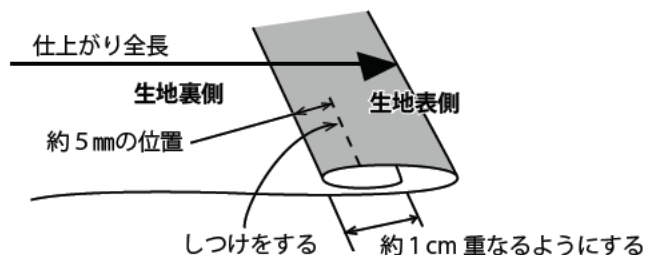


・縫い模様を選択するときは、針を上げる。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。

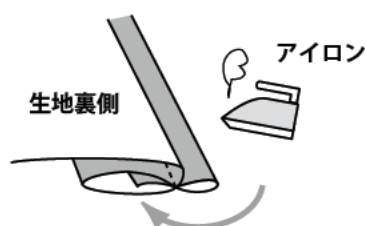


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

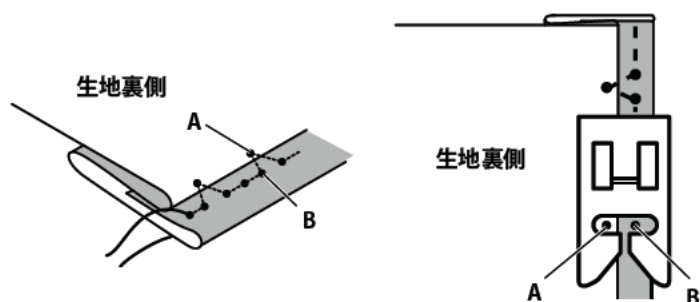
押え	模様表示
 ジグザグ押え	05 07



【1】 生地を図のように折り、しつけをします。

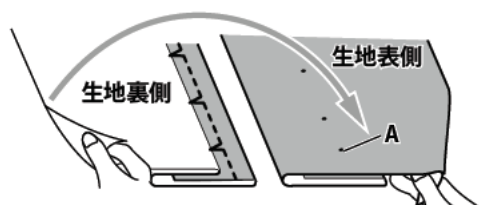


【2】 しつけ縫い目を開き、アイロンで伸ばします。



【3】 『はずみ車』を手前に回し、針を左側でゆっくり下げ、生地の折り山（A）にわずかに針がかかるよう、生地の位置を合わせて縫います。

（針がかかる量が少ないほど、表面に目立ちにくくなります。また、生地の折り山に針がかからないと仕上がりが目飛びをします）



【4】 生地を返し、しつけ糸を抜きます。

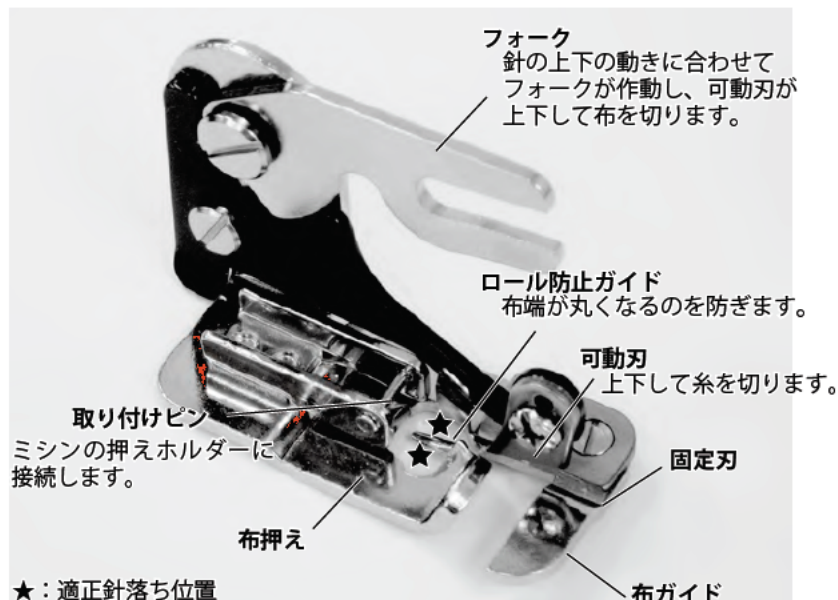
ロックカッター



注意



- ・針先に注意する。ケガをする恐れがあります。
- ・縫い模様を選択するときは、針を上げる。針が折れ、ケガをする恐れがあります。
- ・針の振り幅を『 4.5 ~ 5.5 』にする。針が折れや部品の破損につながります。
- ・縫い目の長さ（布送り量）は『 2.5 ~ 4.0 』でご使用ください。
- ・12 オンスデニム（1 枚）以上の厚みの生地は切れません。
- ・ご使用中はミシンの針、フォークや可動刃には絶対に指を近づけないで下さい。



注意

縫い損じを防ぐため、製品に縫う前に必ず別生地
で試し縫いを行ってください。

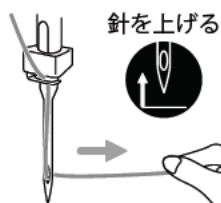
ポイント

伸縮性の生地や薄い生地は
不織布（芯地）を裏に貼る
とよりきれいに仕上がります。



直線縫いよりも上糸調整ダイヤルをやや弱めに
するときれいに縫えます。

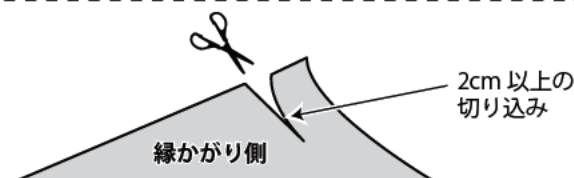
注意



電源を『OFF』にします。
針を一番上にし、
糸を針穴へ通します。



押えを外します。
（P8 の押えの取り
外しかた・取り付
けかたをご参照く
ださい）



生地に 2cm 以上の切り込みを
入れておきます。

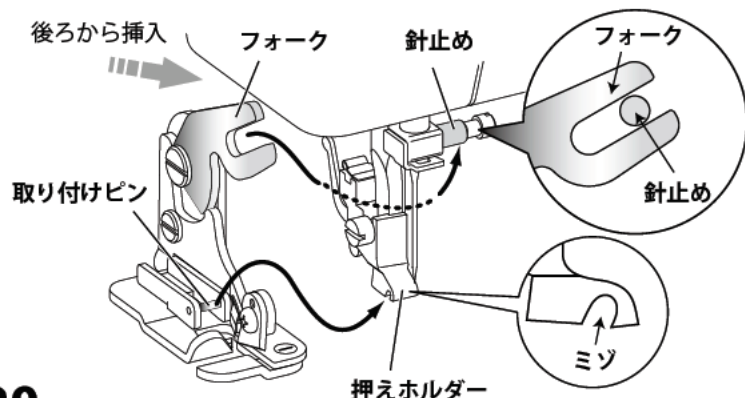
● 取り付けかた



注意



- ・電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。
- ・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。



【1】『ロックカッター』のフォークを『針止め』にかけ、
『押えホルダーのミツ』と『ロックカッター』の
『取り付けピン』の位置を合わせ『押え上げレバー』
を下ろします。

【2】『押え上げレバー』を上げ下げしてミシンに
確実に取り付けられているかを確認して下さい。

*ロックカッターを外すときは【押えの取り外し】と同様の
方法で行ってください。（P8 の押えの取り外しかた・取り付
けかたをご参照ください）

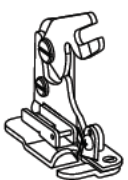
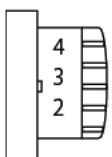
●縫いかた

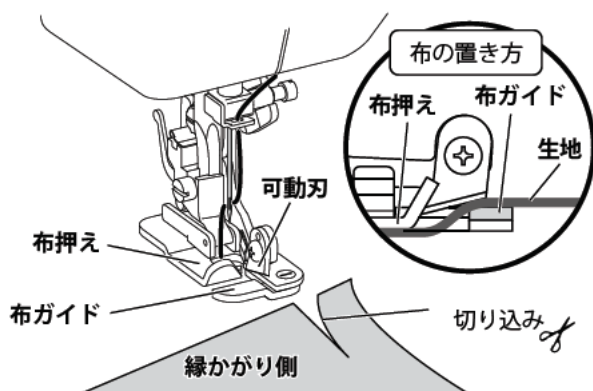


注意



- ・ロックカッターを使用するときは、下記の使用可能縫い模様以外は使用できません。針が折れ、ケガをする恐れがあります。
- ・ミシンを電動で動かす前に、はずみ車を手前にゆっくり回し、針がロックカッターに当たらないことを確認してください。
- ・針先に注意する。ケガをする恐れがあります。

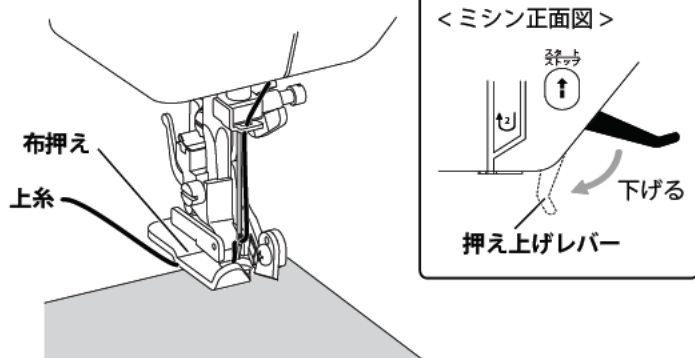
押え	模様表示	縫い目長さ	針振り幅
 ロックカッター	04 	2.5 ~ 4 	4.5 ~ 5.0 



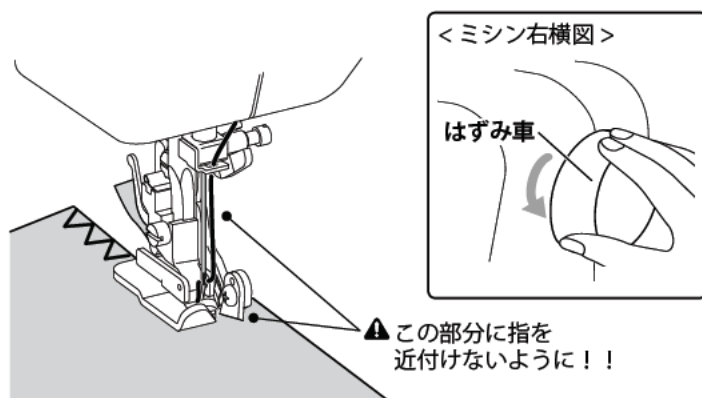
- 【1】『電源スイッチ』を【ON】にし、縫い模様を選びます。
- 【2】『操作パネル』の『振り幅調節切り換えボタン』を押し、『調節ボタン』で4.5～5.0に選択します。
- 【3】 切り込みを入れた部分を、『可動刃』で左右に分かれる様に差し込みます。
(針が落ちる位置よりも奥まで生地を差し込む)

この時、緑かがり側の生地は『布ガイド』の上を通り『布押え』の下側を通るようにセットします。

*生地の置き方を間違えると切れないことがあります。



- 【4】 上糸を『布押え』の下を通し、『押え上げレバー』を下ろします。



- 【5】 『はずみ車』を手動で手前に回し針がどこにも当たらないかを必ず確認して下さい。当たらないのを確認後、電源を入れゆっくりと縫い始めます。

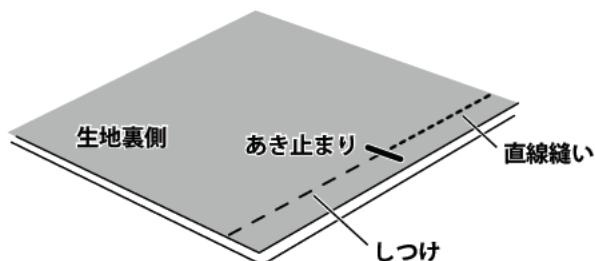
ファスナー付け（突き合わせ）

注意

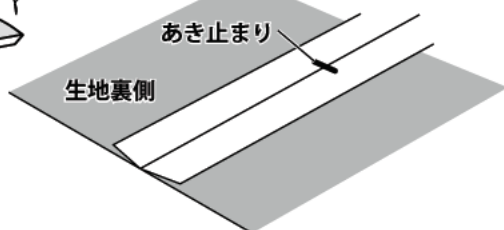


- ・ファスナー付け押えは、【 01 】の直線縫い以外は使用できません。
針が折れ危険です。
- ・ミシンを電動で動かす前に、はずみ車を手前にゆっくり回し、針が押えに当たらないことを確認してください。
- ・押え交換時は電源スイッチを『 OFF 』にしてください。 突然動くとケガをする恐れがあります。
- ・針先に注意してください。 ケガをする恐れがあります。

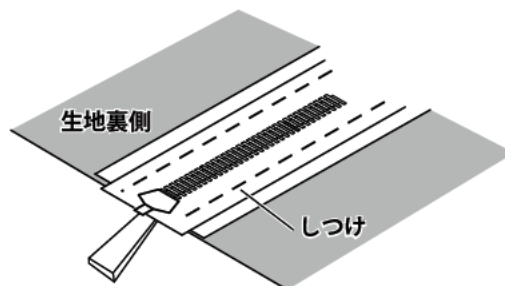
押え	模様表示
 ジグザグ押え	01 



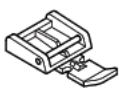
- 【1】 縫い模様を中基線の直線縫いにします。中表に2枚の生地を合わせ、ファスナーのあき止まりまで直線縫いをします。ファスナーを取り付ける部分はしつけをしておきます。

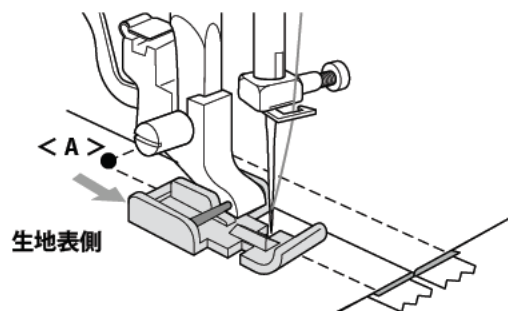


- 【2】 縫い合わせを開き、アイロンをかけます。



- 【3】 開いた部分にファスナーの裏面が上になるようにしつけをします。

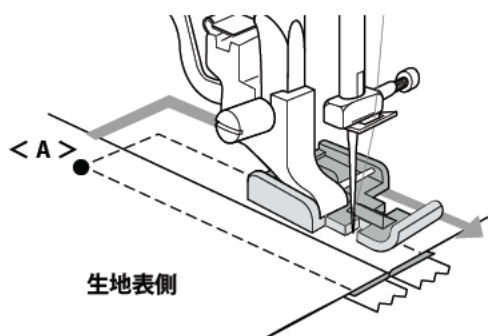
押え	模様表示
 ファスナー付け押え	01 



- 【5】 ファスナーの左を < A > から矢印の方向に縫います。生地突き合わせから7～10mm離して縫います。

- 【4】 『ファスナー付け押え』に交換します。
*ファスナーの左側を縫うときは、
『ファスナー付け押え』の右部分を使用します。

（P8の押えの取り外しかた・取り付けかたをご参照ください）



- 【6】 『ファスナー付け押え』の左側に付け替え、ファスナーの右を < A > から矢印の方向に縫います。しつけ糸を抜きます。

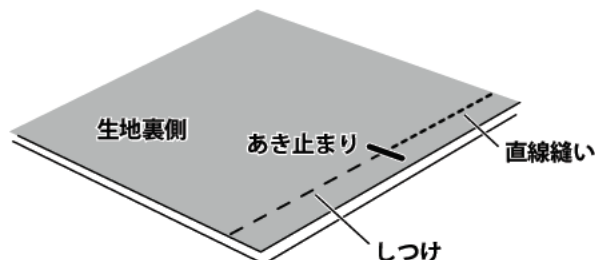
ファスナー付け（脇あき）

⚠ 注意

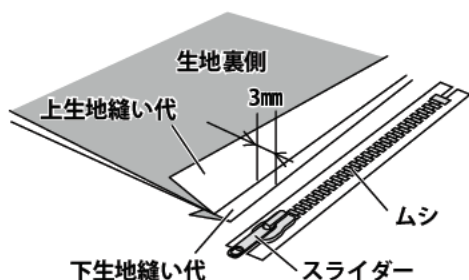


- ・ファスナー付け押えは、【 01 】の直線縫い以外は使用できません。
針が折れ危険です。
- ・ミシンを電動で動かす前に、はずみ車を手前にゆっくり回し、針が押えに当たらないことを確認してください。
- ・押え交換時は電源スイッチを『 OFF 』にしてください。突然動くとケガをする恐れがあります。
- ・針先に注意してください。ケガをする恐れがあります。

押え	模様表示
 ジグザグ押え	01 



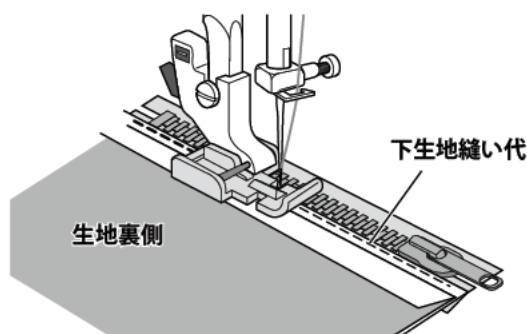
- 【1】 縫い模様を中基線の直線縫いにします。中表に2枚の生地を合わせ、ファスナーのあき止まりまで直線縫いをします。ファスナーを取り付ける部分はしつけをしておきます。



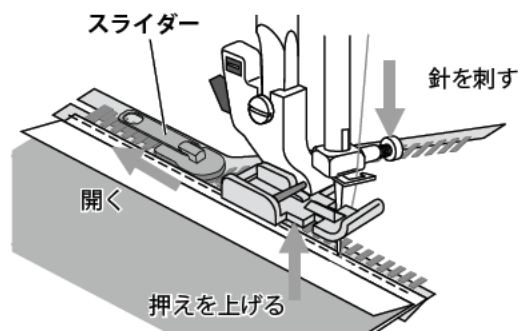
- 【2】 上生地を縫い代まで割り、下生地は縫い代を3mm残して折ります。折り山の下にファスナーのムシを合わせ、しつけをします。
(スライダーを手前に倒しておきます)

押え	模様表示
 ファスナー付け押え	01 

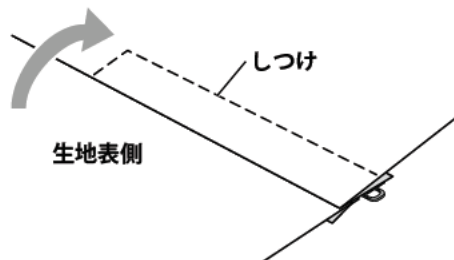
- 【3】 『ファスナー付け押え』に交換します。
*ファスナーの左側を縫うときは、
『ファスナー付け押え』の右部分を使用します。
(P8の押えの取り外しかた・取り付けかたをご参照ください)



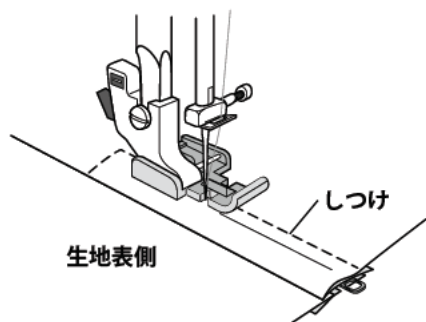
- 【4】 ファスナー左部分をあき止まりから下生地縫い代に縫い付けます。



- 【5】 ファスナーのスライダー部分まで針がきたら、ミシンを一度止め針を生地に刺します。『ファスナー付け押え』を上げ、スライダーを下げ、ムシを開き残りを縫います。



- 【1】 上生地を開き、ファスナーを閉じてからあき止まりとファスナー右部分をしつけをします。



- 【2】 『ファスナー付け押え』を左側に付け替え、裏に隠れたファスナー右部分を縫い付けます。しつけを抜きます。

ボタンホール縫い

ボタンの大きさにあったボタンホールを縫うことができます。



注意



- ・押え交換時は、電源スイッチを『OFF』にする。
突然動くとケガをする恐れがあります。



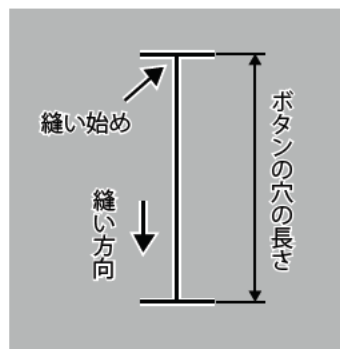
- ・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

縫い損じを防ぐため、製品に縫う前に必ず別生地でボタンホールを作り、ボタンが通るかどうか確認ください。

押え	模様表示
 ボタンホール押え	b1 b2 b3

ポイント

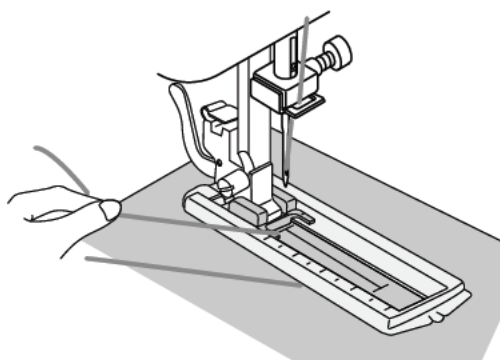
伸縮性の生地や薄い生地は不織布（芯地）を裏に貼るとよりきれいに仕上がります。



- 【1】 ボタンの大きさと厚さ、生地の種類に応じてボタンの穴の長さを決め、ボタンホールを作る生地に印を付けます。

*印を付けておくと、縫う方向を間違えません。

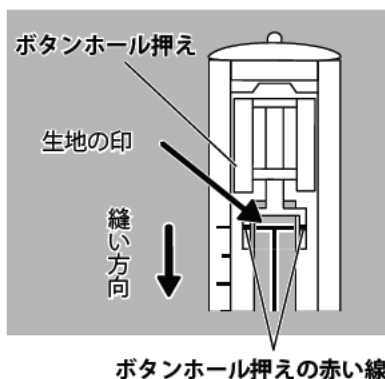
ボタンの穴の長さ = ボタンの直径 + ボタンの厚み



- 【2】 『ボタンホール押え』を手前に引いておきます。

*ボタンホール押えは、押え上げレバーを2段目まで上げて交換してください。

（P8の押えの取り外しかた・取り付けかたをご参照ください）
（P8の押え上げレバーを参照ください）



【3】 生地に付けたボタンホールの印と

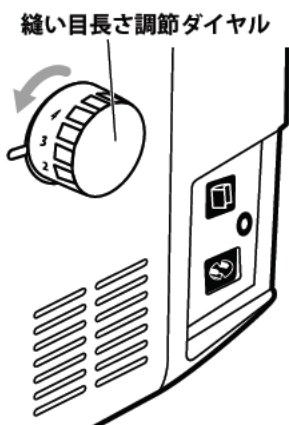
『ボタンホール押えの赤い線』を合わせて、生地を置きます。

『ボタンホール押え』を『押え上げレバー』で下げます。

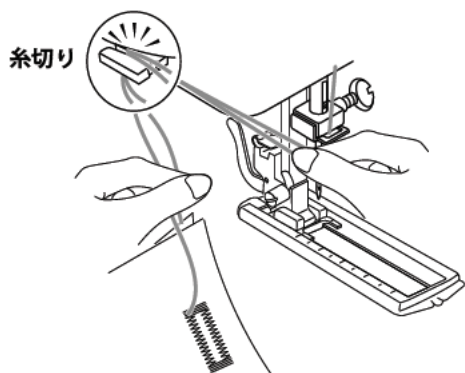
*生地が斜めになっていると、ボタンホールが生地に対して斜めに作られますのでご注意ください。

【4】 以下の手順で縫い始めます。

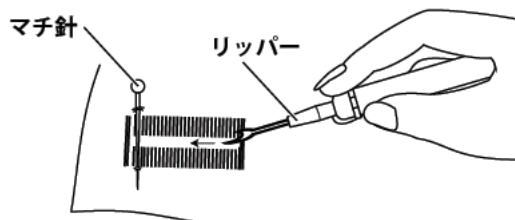
1. 『縫い目長さ調節ダイヤル』を回しボタンホール模様 b1 に合わせます。上糸を軽く持ち、『スタート/ストップボタン』を押して縫い始めます。縫い始めから縫い終わりまで縫い、ミシンを止めて持っている上糸を切ります。
2. 『縫い目長さ調節ダイヤル』を回して、ボタンホール模様 b2 を選択し、『スタート/ストップボタン』を押し、5～6 針かんぬき止めをしてミシンを止めます。
3. 『縫い目長さ調節ダイヤル』を回して、ボタンホール模様 b3 を選択し、『スタート/ストップボタン』を押し、縫い終わりから縫い始めまで縫い、ミシンを止めます。
4. 『縫い目長さ調節ダイヤル』を回して、ボタンホール模様 b2 を選択し、『スタート/ストップボタン』を押し、5～6 針かんぬき止めをしてミシンを止めます。



模様	1 b1	2 b2	3 b3	4 b2
縫いかた	縫い始め 縫い終わり	5～6 針かんぬき止め	縫い始め 縫い終わり	5～6 針かんぬき止め



- 【5】 『押え上げレバー』で『ボタンホール押え』を上げ、糸切りで糸を切ります。



注意



・リッパーの先端に手をそえない。
ケガをする恐れがあります。

- 【6】 ボタンホールの穴に付属の『リッパー』を刺し、押しながらボタン穴を切り開きます。

*マチ針をかんぬき部分に刺しておくと、ボタンホールの切り開き過ぎを防げます。

操作パネルのメッセージ

間違った操作が行われると、操作パネルにメッセージが表示されます。
操作パネルにメッセージが表示されたら、以下の手順に従って問題を解決してください。



- 下糸巻き状態になっています。
縫製をおこなうときは糸巻き軸を左側にしてください。



- 押えが上がった状態。
押え上げレバーで押えを下げます。



- 糸などが絡んだときに強制的に回転が中断されてミシンが停止した状態です。
電源スイッチを OFF にしてから糸の絡みを取り除き、再び電源スイッチを ON にしてください。



- 縫い目の長さを調節できない状態です。
縫い目長さ調節ダイヤルの数字を 0 ～ 4 の範囲に合わせてください。

針の取り替えかた



注意



- ・電源スイッチを『OFF』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。
突然動くとケガをする恐れがあります。



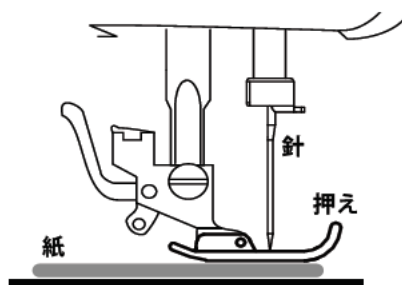
- ・針先に注意する。ケガをする恐れがあります。
- ・針は平らな面を後ろ向きに付ける。
針が折れ、ケガをする恐れがあります。また、縫い目ができず縫えません。
- ・針を交換するときは専用の付属品で交換する。
縫っているときに針が抜け、ケガをする恐れがあります。

針を上げる < ミシン右横図 >



はずみ車

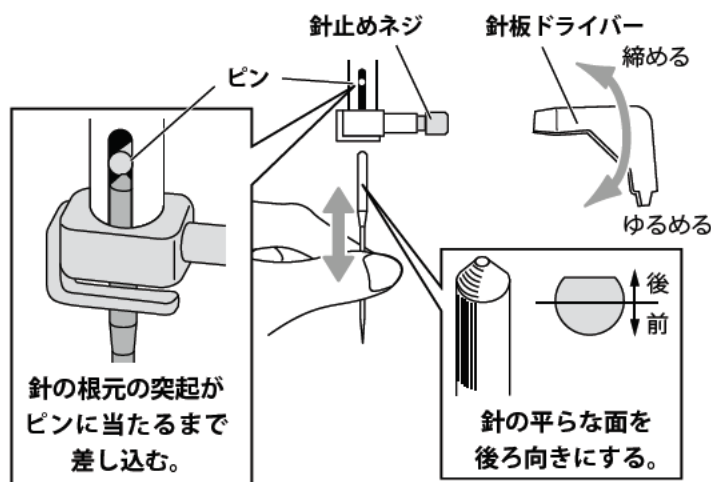
- 【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上 にします。



< ミシン正面図 >



- 【2】『押え上げレバー』を上げ、『押え』の下に生地や紙などを敷き、『押え上げレバー』を下げます。
*針が『針板』の針穴に落下するの防止します。



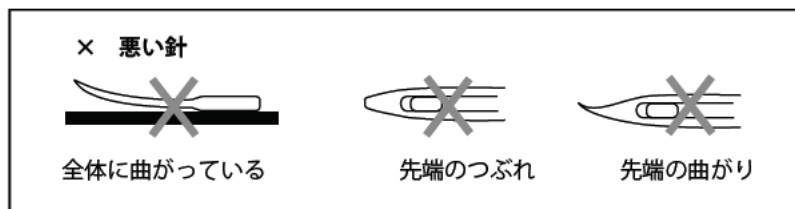
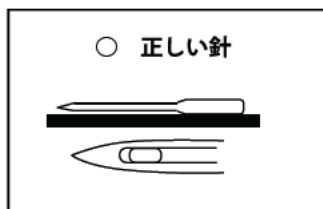
- 【3】『針板ドライバー』を使用し、針を交換します。

外す : 取り付けられている針を持ち、『針止めネジ』をゆるめ、針を下に引き抜きます。

付ける : 平らな面を自分から見えないように持ち、『ピン』に当たるまで差し込み、『針止めネジ』を締めます。

正しい針の選びかた

- ・曲がった針は使用しないでください。
- ・家庭用ミシン針 (HA × 1) をご使用ください。
- ・目飛び、糸絡みがある場合は、ミシンに付いている針先が曲がっていたり、つぶれていないかを確認してください。
- ・不良の針を使い続けると、きれいに縫えないばかりでなく、針板やかまに傷をつけます。新しい針に交換してください。



* ガラスのような平らな面に針を置き、針の曲がり具合を確認してください。

かまの掃除

ミシン本体の汚れは、やわらかい生地で乾拭きしてください。

(住宅用洗剤、漂白剤、ベンジン、シンナー、化学雑巾は表面の色が変わるため、ご使用しないでください)



注意

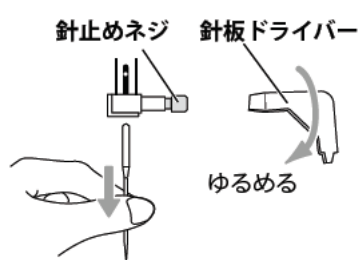
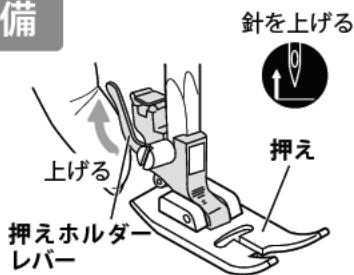


・電源スイッチを『OFF』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。
突然動くとケガをする恐れがあります。



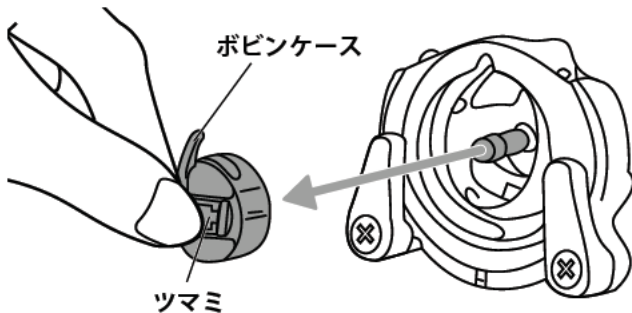
・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

準備

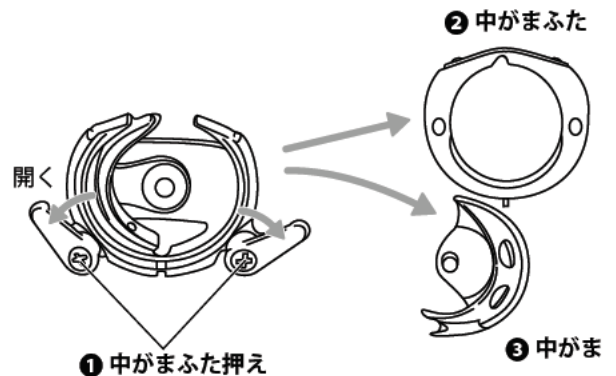


『押え』と針を外します。

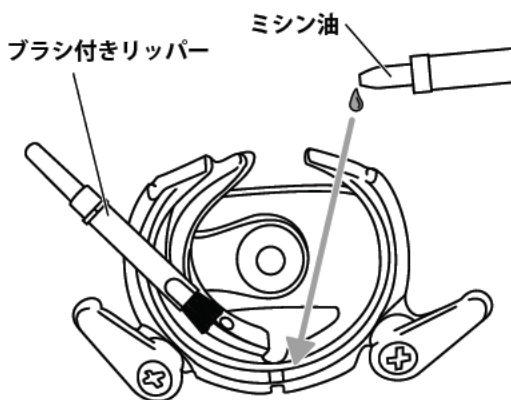
(P8の押えの取り外しかた・取り付けかた、P36の針の取り替えかたをご参照ください)



【1】『ボビンケースのつまみ』をおこし、
つまんだまま引き抜きます。



【2】 ①『中がまふた押え』を左右に開き、
②『中がまふた』→ ③『中がま』の順番で
取り出します。

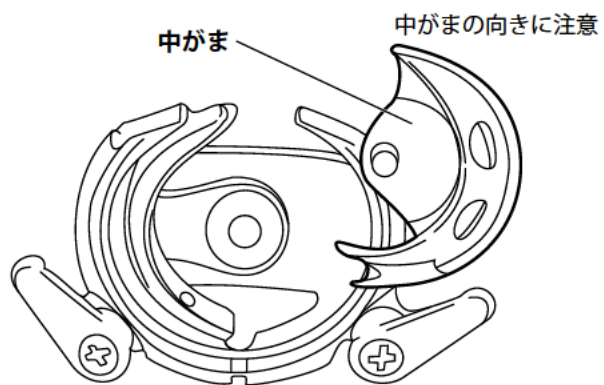


【3】 かまのまわりの糸くずやほこりを取り除き、
図で示したところにミシン油を一滴差します。
(差し過ぎないように注意する)
* ミシン油』付属されていません。

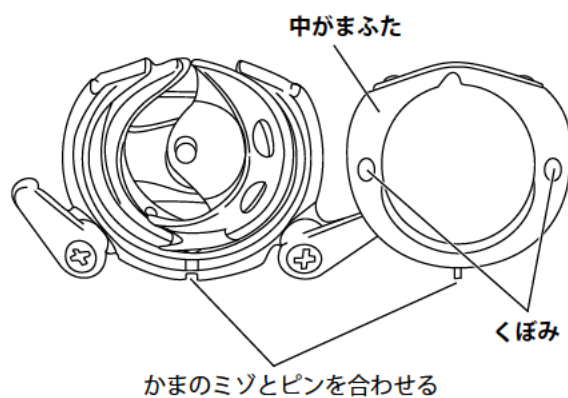


* 傷を確認
傷がある場合…
目の細かい紙やすり
(400～1000番)で取り除く

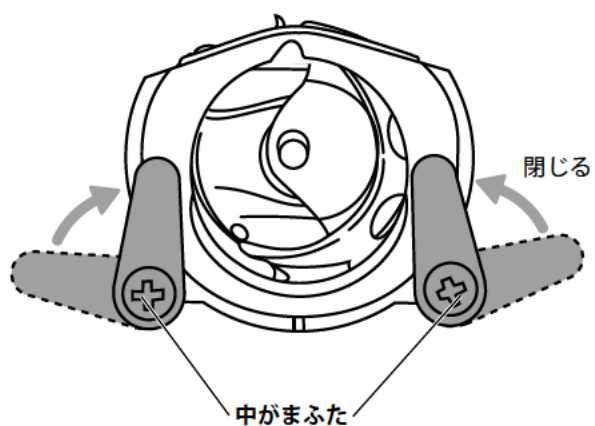
【4】 図の矢印部をさわって、傷があるか確認します。
傷がある場合：目の細かい紙やすり
(400～1000番)などで取り除く。
* 傷があると糸絡みや目飛びの原因になります。



- 【5】 組み立てるときは『中がま』の向きに注意して取り付けます。



- 【6】 『中がまふたのくぼみ』を表にして『かまのミソ』と『ピン』を合わせて、『中がまふた』を取り付けます。



- 【7】 『中がまふた押え』を閉じて固定します。

送り歯の掃除



注意

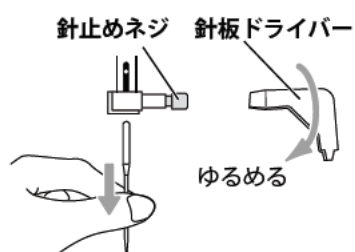
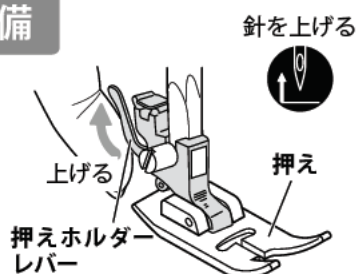


・電源スイッチを『OFF』にし電源コードプラグをコンセントから抜く。
突然動くとケガをする恐れがあります。

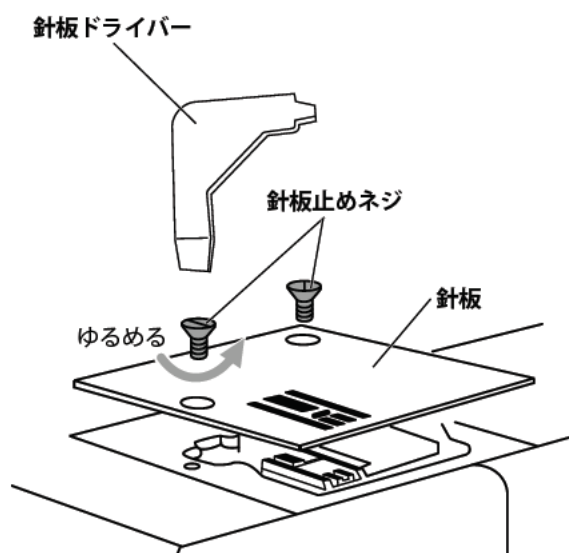


・針先に注意する。
ケガをする恐れがあります。

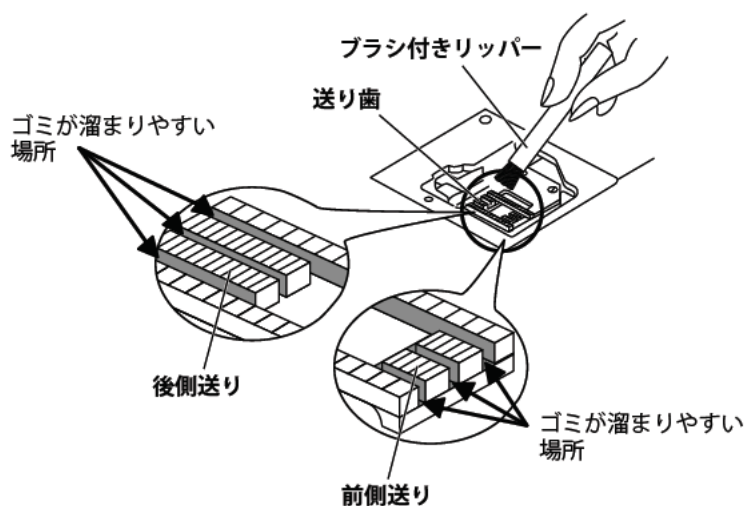
準備



『押え』と針を外します。
(P8の押えの取り外しかた・取り付けかた、
P36の針の取り替えかたをご参照ください)



- 【1】『針板ドライバー』で『針板止めネジ』2個を外します。
- 【2】『針板』を外します。



- 【3】『送り歯』の隙間や『前側送り、後側送り』にはさまっているゴミなどを取り除きます。
- 【4】『針板』を『針板止めネジ』で止め、
『針』と『押え』を取り付けます。

フットコントローラー（別売品）



警告



・死亡、火災、感電、ケガの恐れがあります。



・使用後はフットコントローラーピンジャックを抜く。
・フットコントローラーピンジャックを持って、抜き差しする。
電源コードを引っ張ると、電源コード部分が破損し、死亡、火災、感電、機器故障の原因になります。



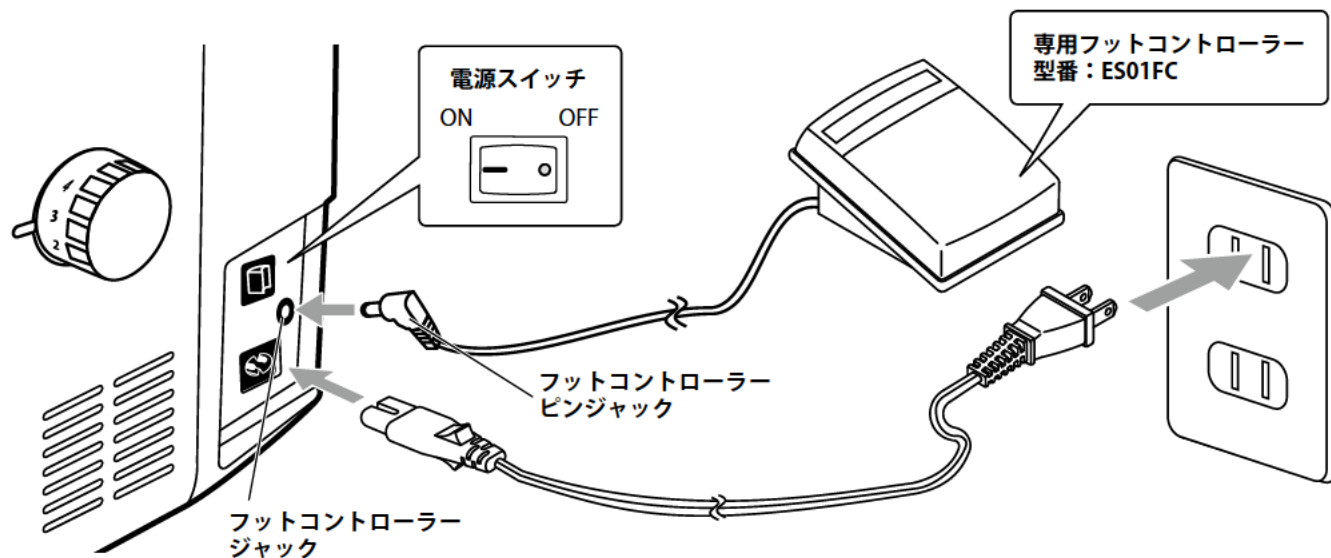
・フットコントローラーに物を載せない。
・濡れた手でフットコントローラーピンジャックを抜き差ししない。



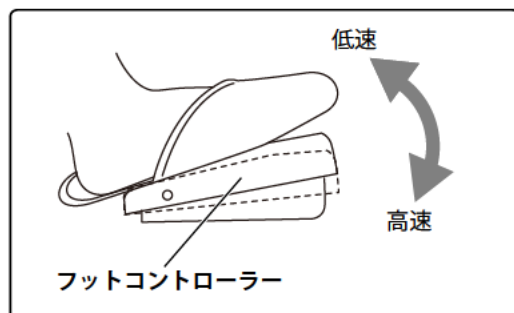
注意



・電源スイッチを『OFF』にする。
・はずみ車や針周辺に手や物を置かない。
突然動くとケガをする恐れがあります。



- [1] 『電源スイッチ』を『OFF』にします。
- [2] 『フットコントローラーピンジャック』をミシン側の『フットコントローラージャック』に奥まで確実に差し込みます。
- [3] コンセント（家庭用電源 / 100V）に『電源コードプラグ』を差し込みます。
- [4] 『電源スイッチ』を『ON』にします。
（『ランプ』や『操作パネル』が点灯します）
- [5] 『フットコントローラー』を少しずつ踏み込むと、ミシンが動き始めます。
- [6] 踏み込むほどミシンのスピードが速くなります。『フットコントローラー』から足を離すとミシンは停止します。



*ミシンの『スピード調節つまみ』で、『フットコントローラー』をいっぱいまで踏み込んだときのスピードを調節できます。

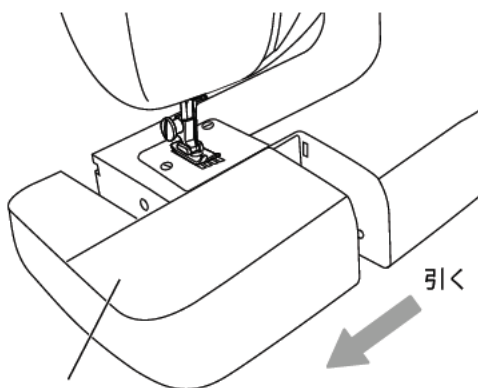
ワイドテーブル（別売品）



注意



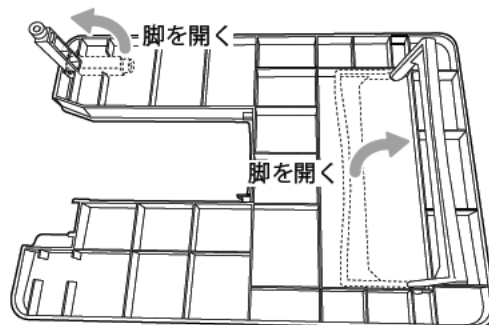
・ワイドテーブルに大きな力を加えない。
ワイドテーブルが破損し、ケガをする恐れがあります。



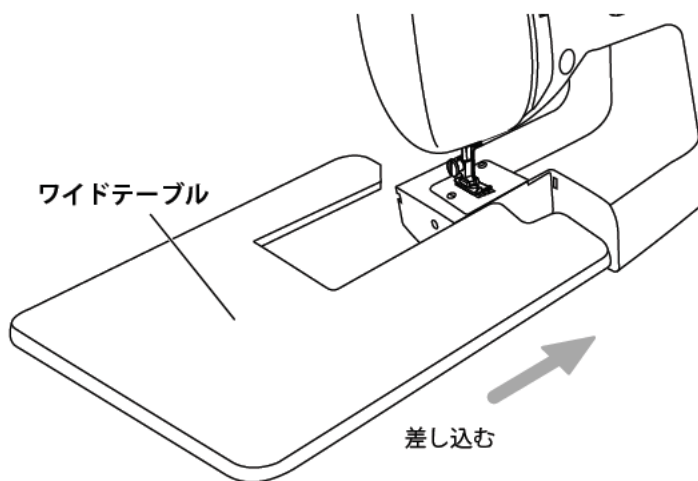
補助テーブル

- 【1】『補助テーブル』を持って左に引き抜きます。

<ワイドテーブル裏面図>



- 【2】『ワイドテーブル』の脚をしっかりと起こします。

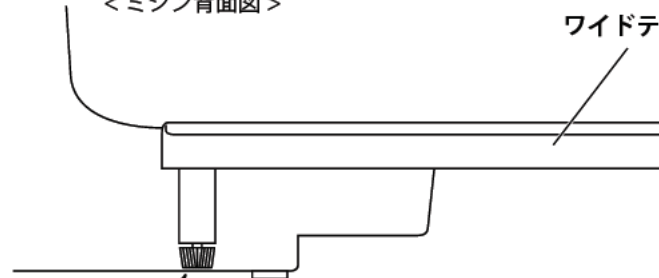


ワイドテーブル

- 【3】『補助テーブル』を外したところに『ワイドテーブル』をセットします。

<ミシン背面図>

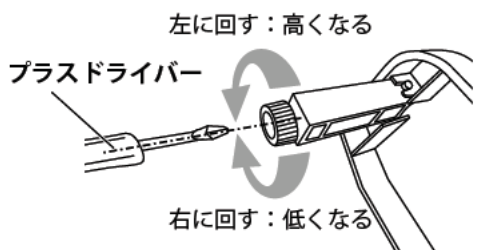
ワイドテーブル



- 【4】『ワイドテーブル』の高さが合わない場合、右奥側の脚を回して高さを調節します。

*付属の『針板ドライバー』をご使用いただくと、ネジが破損する恐れがあります。

*市販のプラスドライバーをご使用ください。



不具合	原因	処理	参照ページ
上糸が切れる	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	15~16
	上糸の調子が強すぎる。	上糸調節ダイヤルで糸調子を弱める。	22
	かまに糸くずが絡んでいる。	かまの糸くずを取り除く。	37~38
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	36
	糸に結び目やコブがある。	糸に結び目やコブの部分を取り除く。	—
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	23
	中がまに傷がある。	中がまの傷を取り除く。	37~38
	正規のボビンを使用していない。	正規のボビンを使用する。	4・43
	糸が劣化している。 (絹糸や綿糸は劣化しやすい)	新しい糸に取り替える。	—
下糸が切れる	下糸のかけかたが間違っている。	下糸を正しくかけ直す。	14
	かまに糸くずが絡んでいる。	かまの糸くずを取り除く。	37~38
	正規のボビンを使用していない。	正規のボビンを使用する。	4・43
	糸が劣化している。 (絹糸や綿糸は劣化しやすい)	新しい糸に取り替える。	—
縫い目がとぶ	針の取り付けかたが間違っている。	正しく針を取り付ける。	36
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	36
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	23
	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	15~16
	中がまに傷がある。	中がまの傷を取り除く。	37~38
生地がシワになる	上糸の調子が強すぎる。	上糸調節ダイヤルで糸調子を弱める。	22
	上糸、下糸のかけかたが間違っている。	上糸、下糸を正しくかけ直す。	14~16
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	23
生地を送らない	送り歯にホコリが溜まっている。	送り歯のホコリを取り除く。	39
	送り歯が下がっている。	送り歯をあげる(ドロップフィード)。	6

不具合	原因	処理	参照ページ
生地裏の糸が タオル状になる	上糸の調子が弱すぎる。	上糸調節ダイヤルで糸調子を強める。	22
	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	15~16
回転が重い	送り歯にホコリが溜まっている。	送り歯のホコリを取り除く。	39
ミシンが動かない	電源コードプラグの差し込みが不十分。	電源コードプラグをしっかりと奥まで差す。	10
	電源スイッチが OFF になっている。	電源スイッチを ON にする。	10
	下糸巻き軸が右になっている。	下糸巻き軸を左にする。	20・35
	押えが上がったままになっている。	押え上げレバーで押えを下げる。	8・35

仕様

これらの現象、原因以外の不具合はミシン内部の調整や部品の磨耗による交換または電気系統の故障が原因となっている可能性があります。ご購入店またはお客様相談係 (P44 参照) にご相談ください。

モデル：HH-2250	サイズ：W42.5 × H30 × D16.5m	重量：5.5kg	使用針：家庭用ミシン針 (HA × 1)
最大振幅：5mm	最大送り量：4mm	返し縫い送り量：3mm	ボタンホール：4 ステップ
定格電圧：交流 100V	定格周波数：50/60Hz	定格消費電力：42W	回転速度：150 ～ 700rpm
かまタイプ：垂直半回転がま		ボビン：家庭用プラスチックボビン (高さ 11.5mm × 直径 20.5mm)	

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

- 【1】 このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 【2】 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
- 【3】 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、ご購入店または、お客様相談係にお申しつけください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

- 【1】 取扱説明書に基づいて、正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障、損傷したとき。
ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
- 【2】 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によって元どおりに修復できないことがあります。
- 【3】 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。

お問い合わせまたはご相談先

ミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記の弊社「お客様相談係」でも承っておりますのでご遠慮なくお申し越してください。

株式会社 アックス ヤマザキ

フリーダイヤル

「お客様相談係」

0120-405-851

〒544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5

TEL.06-6717-5851 FAX.06-6741-7875

*住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。

*純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記の弊社「お客様相談係」におたずねください。

サービス工場のご案内

純正部品のご購入は、購入店または下記のサービス工場へお申し込みください。

ご購入頂きましたミシンは、下記の専門工場で点検修理等のサービスを致します。

なお、サービスには有償修理点検と無償修理点検とがあります。サービス工場にお問合せください。

*ミシンを工場へ送付されるときは、このミシンの箱と緩衝材（クッション）をご利用ください。

「送付先」

〒544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5 TEL:06-6717-5851 FAX:06-6741-7875



株式会社 アックス ヤマザキ ミシンサービス係 行き

月～金曜日 午前9:00～12:00 午後1:00～5:00

(土曜/日曜/祝祭日休み)

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

Handwriting practice lines consisting of multiple sets of three horizontal dashed lines for tracing and writing practice.

ミシン保証書

モデル	HH-2250	機械番号		ご購入後には※印欄への記入の有無をご確認下さい。 記入がない時はご購入日、またはお届け日が証明できる伝票等を添付してください。 本書は再発行致しません。 紛失しないように大切に保管して下さい。
※お買い上げ日	年 月 日	保証期間	お買い上げ日より本体 1 年	
※お客様	ご住所	〒 TEL 様方		
	フリガナ ご芳名	様		
※販売店	住所 店名	〒 TEL		

無料修理保証に付いて

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から 1 カ年間）内に故障が発生した場合は、無料で故障箇所の修理調整、または故障部品の交換をいたします。
2. 無料修理保証は表記ミシン頭部のみとし、ケース、針及び電球、消耗部品を除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書を提示してください。
4. 保証機種がコンパクトミシンまたは、軽量可搬のポータブルミシン等であるときは、そのミシンを購入店へご持参、またはご相談ください。

無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1. 「取扱説明書」に記載してある使用方法または、保存方法と異なる方法によったため不調、故障または損傷したとき。
2. 浸水、冠水、火災、天災地変により不調故障または損傷したとき。
3. ご購入店、または当社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
4. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
5. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解掃除等をしたとき。
6. この保証書のご提示がなかったとき。
7. この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
8. この保証書の字句の訂正または書き換えをしたとき。
9. この保証書は日本国内に限り有効といたします。 This warranty is valid only in Japan.

有償修理について

1. 上記の 1. ～ 10. に該当する場合、その他有料で修理するときの費用は、別に定める必要部品代および技術料の合計額といたします。

お問い合わせまたはご相談先

この保証書に記載してありますご購入店または、取扱説明書の「サービス工場のご案内」に記載された「お客様相談係」へお申越してください。

お客様へのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、当社の「お客様相談係」等へお問い合わせください。
2. 「取扱説明書」の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保存してください。



【保証責任者】株式会社 アックス ヤマザキ

〒 544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5
TEL:06-6717-5851